

1. 子ども未来応援計画策定に係るアンケート調査結果の概要

(1) 調査実施の状況

1) 調査の目的

宜野湾市に住む子どもを取り巻く社会や経済の状況が、子どもの成長や夢や希望、日々の生活などにどのように影響しているかを調べ、これからの子どもや子育て環境への対策を検討していくことを目的とし、アンケート調査（子ども調査）を実施した。

2) 調査の対象及び実施方法

沖縄県が実施した「沖縄子ども調査」に準じ、市内在住の未就学児から高校生までの保護者及び児童生徒に対してアンケート調査を実施した。各調査の対象及び調査実施方法は以下の通りである。

①未就学児童（1歳児・5歳児）の保護者：郵送による配布・回収

②小学1年生の保護者：学校を通して配布・回収

③小学5年生の児童及び保護者：学校を通して配布・回収

※各学級内で子ども票・保護者票をセットで配布。子ども票については、担任の協力のもと、教室で回答。保護者票については児童が持ち帰り、保護者が記入。それぞれのアンケートについては、調査票記入後に回答者自身で返信用封筒に密封。学校を通して回収を行った。

④中学2年生の生徒及び保護者：学校を通して配布・回収

※配布・回収方法は上記③と同様。

⑤高校2年生の生徒及び保護者：学校を通して配布・回収

※市内に立地する県立高等学校（宜野湾高等学校、普天間高等学校、中部商業高等学校）の協力のもと、宜野湾市在住の生徒とその保護者を対象に実施。

※各学級内で子ども票・保護者票をセットで配布。子ども票・保護者票を生徒が持ち帰り、それぞれが記入。それぞれのアンケートについては、調査票記入後に回答者自身で返信用封筒に密封。学校を通して回収を行った。

3) 配布・回収の状況

■調査票の回収状況

調査対象		配付件数 (件)	有効回答数 (件)	有効 回答率 (%)	マッチング数 (件)	マッチング率 (%)	
保護者のみ調査	未就学児	2,322	1歳児 518	44.7	-	-	
	5歳児 519						
小学1年生	保護者	1,093	821	75.1	-	-	
マッチングによる 調査	小学5年生	保護者	1,060	890	84.0	882	93.3
		子ども	1,060	945	89.2		
	中学2年生	保護者	944	696	73.7	675	88.0
		子ども	944	767	81.3		
	高校2年生	保護者	541	361	66.7	356	94.9
		子ども	541	375	69.3		
小5・中2・高2 合計	保護者	2,545	1,947	76.5	1,913	91.7	
	子ども	2,545	2,087	82.0			
総計	保護者	5,960	3,805	63.8	-	-	
	子ども	2,545	2,087	82.0			

有効回答数1,037の内、
困窮・非困窮に分類できる回答数986
有効回答数821の内、
困窮・非困窮に分類できる回答数746
マッチング数882の内、
困窮・非困窮に分類できる回答数812
マッチング数675の内、
困窮・非困窮に分類できる回答数626
マッチング数356の内、
困窮・非困窮に分類できる回答数333

※「マッチング数」とは、「保護者の調査票」と「子どもの調査票」について、同一世帯の情報として集計が可能となった数をいい、「マッチング率」とは、子どもの有効回答数を母数として、マッチング数を除いた割合をいう。

■有効回答数の内、困窮・非困窮に分類できる回答数

調査対象		実数	割合
未就学児	困窮	177	18.0%
	非困窮	809	82.0%
	合計	986	100.0%
小学1年生	困窮	159	21.3%
	非困窮	587	78.7%
	合計	746	100.0%

■マッチング数の内、困窮・非困窮に分類できる回答数

調査対象		実数	割合
小学5年生	困窮	210	25.9%
	非困窮	602	74.1%
	合計	812	100.0%
中学2年生	困窮	172	27.5%
	非困窮	454	72.5%
	合計	626	100.0%
高校2年生	困窮	95	28.5%
	非困窮	238	71.5%
	合計	333	100.0%

※困窮・非困窮の計算について

本調査では、沖縄子ども調査同様に、児童手当など社会保障給付金を含んだ世帯全体の年間の可処分所得（いわゆる「手取り額」）を聞いている。その額を基に世帯人数で調整した額（等価可処分所得）を算出し、122万円未満の世帯を困窮層とした。

（122万円は厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」において推計された相対的貧困基準（いわゆる「貧困ライン」））

なお、本調査で導き出した困窮層の割合については、あくまでアンケート結果より算出したものであり、「相対的貧困率」とは異なるものである。

※高校生調査（高校2年生の生徒及び保護者調査）について

高校生調査については、宜野湾市に立地する県立の高等学校（3校）に協力を仰ぎ、それぞれの高等学校に在籍している本市在住の生徒及びその保護者に調査を行ったものとなっている。市外の公立高等学校や私立高等学校は調査対象となっていないことに留意して読み解く必要がある。

(2) 小学1年生・小学5年生・中学2年生調査結果の概要

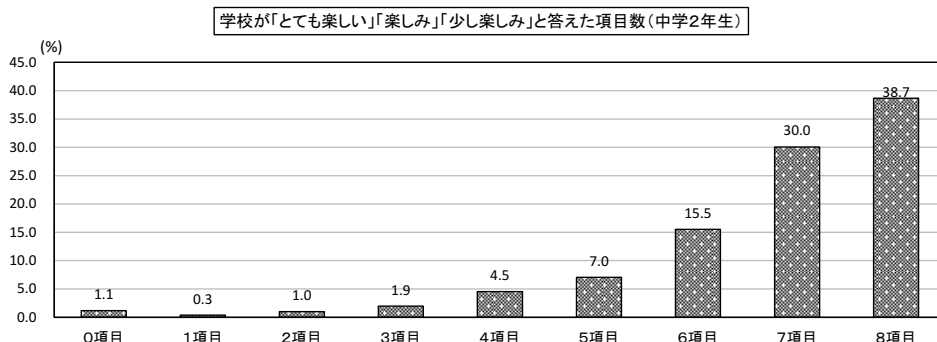
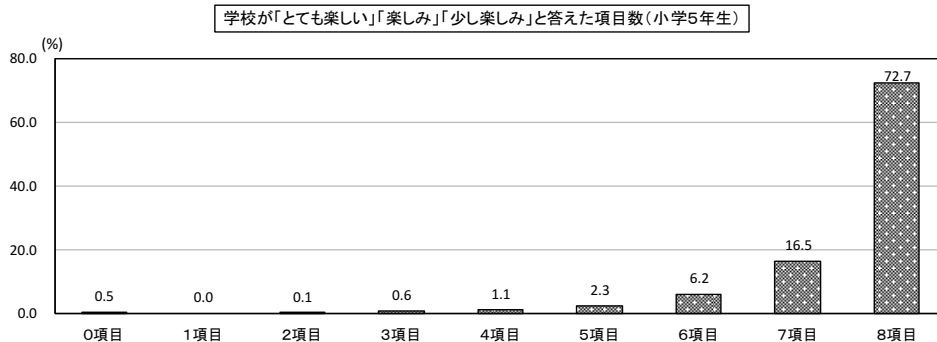
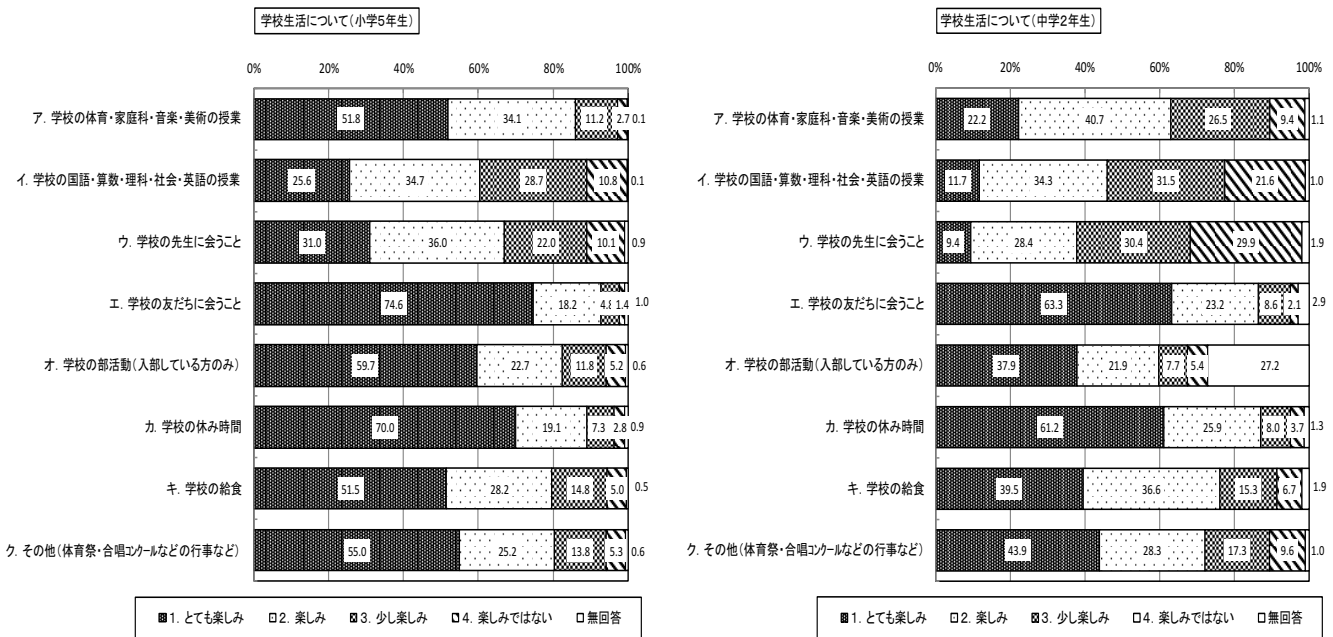
学校・勉強について

①学校生活について

○学校生活で楽しみと感じている事 <小5児童:問2、中2生徒:問2>

学校生活について、小学5年生と中学2年生を比較すると、小学生では全ての項目で『楽しみである』(「1. とても楽しみ」+「2. 楽しみ」)とした回答割合が高いが、中学生では『楽しみである』という割合が全体的に低くなっている。特に「先生に会うこと」や「国語等の主要な教科の授業」について『楽しみでない』(「3. 少し楽しみ」+「4. 楽しみではない」)とした回答割合の方が高くなっている。

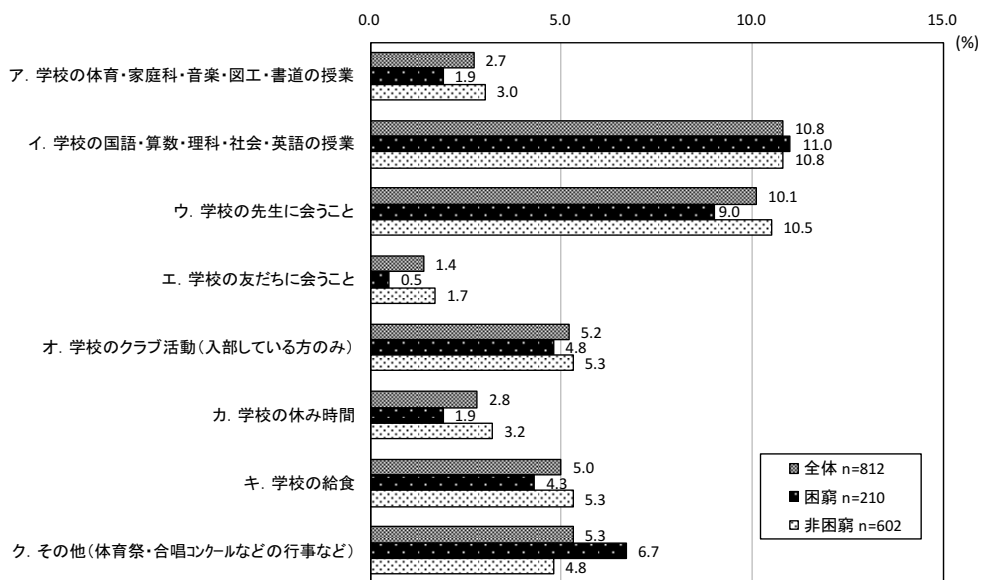
また、小学生では8項目全てを『楽しみである』と回答している割合が7割強みられるのに対し、中学生では4割弱と少なくなっている。小学生は学校生活を楽しんでいる児童が多いが、中学生になると楽しくないと感じている生徒が増えてくることから、学校段階があがっても学習意欲が低下しないよう、学校生活を楽しめるような工夫が求められると言える。



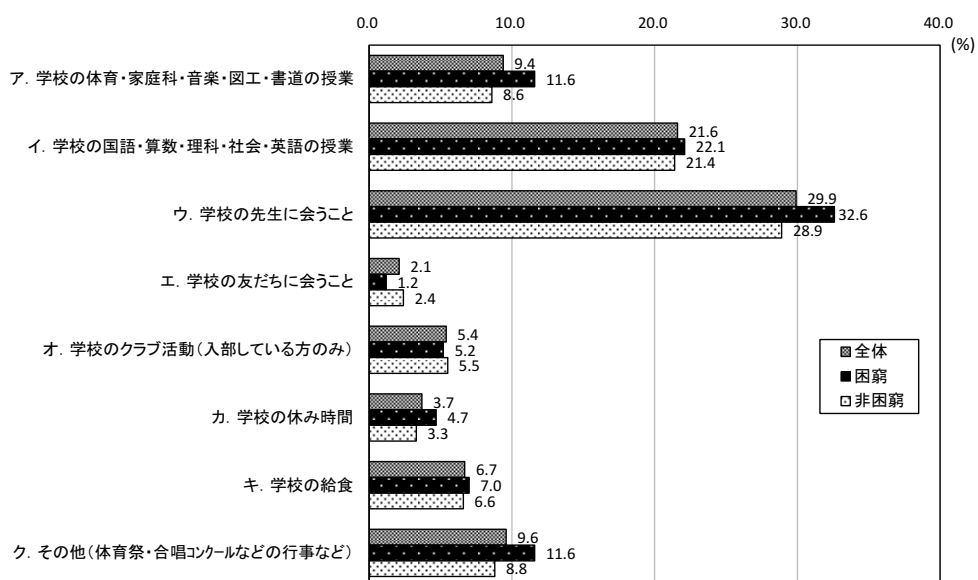
○学校生活について楽しみでない項目の経済状況による違い <小5児童：問2、中2生徒：問2>

学校生活を『楽しみでない』とした回答について、経済状況別に小学生と中学生で比較してみると、困窮世帯については、小学生の頃は多くの項目において非困窮世帯よりも学校を楽しんでいる傾向が見受けられるものの、中学生になると困窮世帯の生徒は多くの項目で学校生活を楽しくないと感じる様になる傾向が読み取れる。

学校が「楽しみではない」とした子どもの割合(小学5年生)



学校が「楽しみではない」とした子どもの割合(中学2年生)

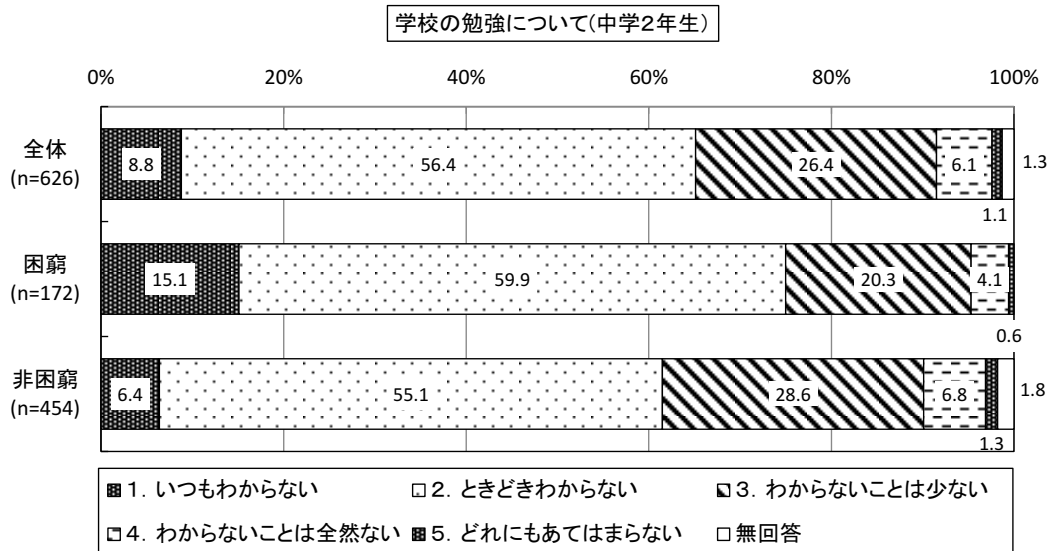
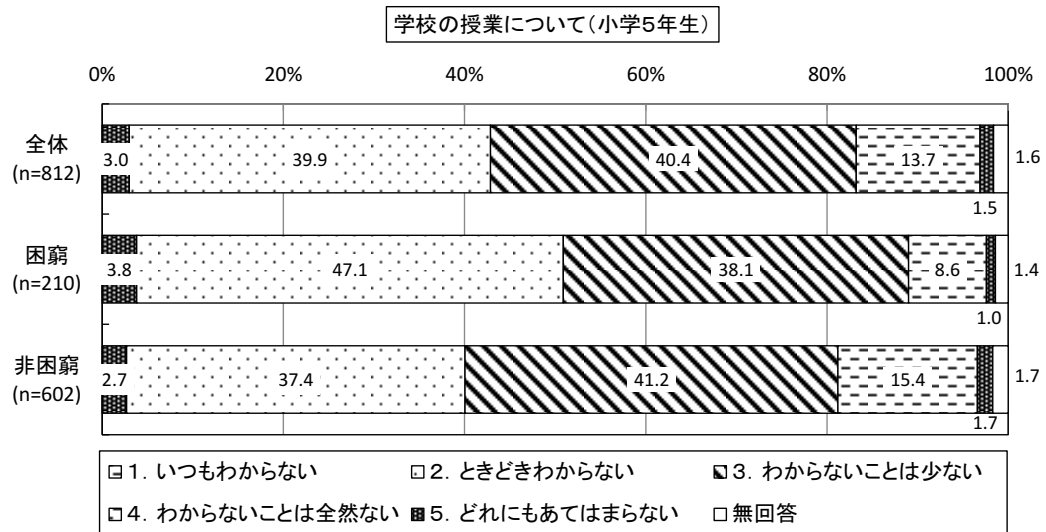


②勉強について

○授業の理解 <小5児童：問4、中2生徒：問4>

学校の授業について、『わからない』（「1. いつもわからない」＋「2. ときどきわからない」）とする回答割合をみると、小学生（42.9％）に比べて中学生（65.2％）では『わからない』という回答が22.3ポイント高くなっている。

また、小学生・中学生ともに「いつもわからない」という回答も少なからずみられ、学校の授業についていくことができない児童生徒が一定程度いる状況にある。

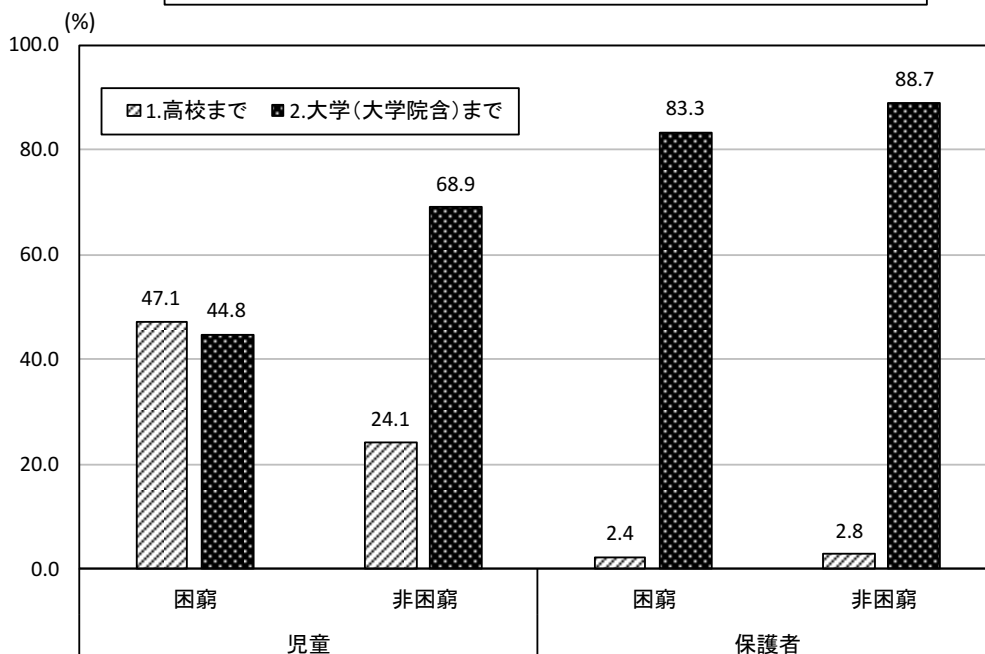


○進学意識の理想 <小5児童：問8、中2生徒：問8、小5保護者：問10、中2保護者：問10>

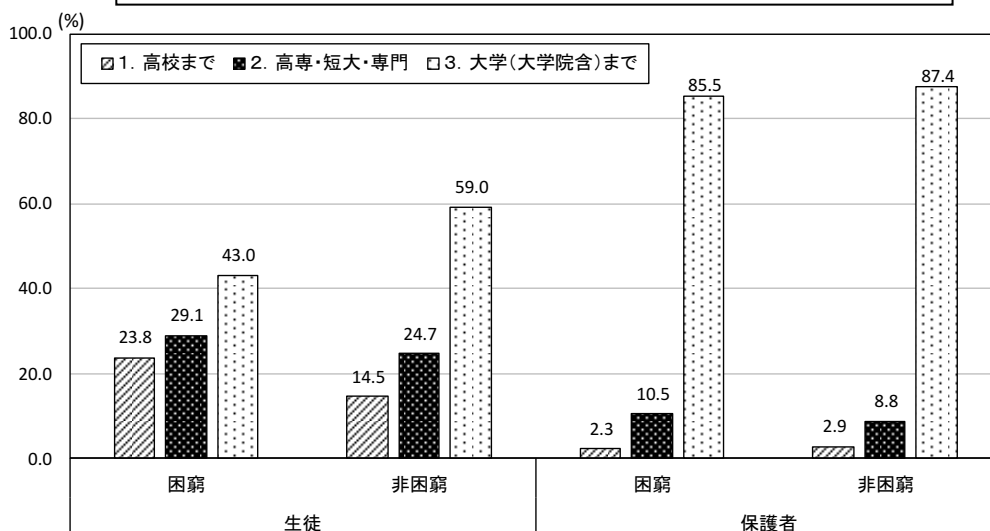
進学意識について、経済状況別に児童・生徒本人と保護者の比較を行った。保護者は、小5保護者・中2保護者ともに所得に関わらず大学進学意識が高いことがわかる。児童生徒についてみると、小学5年生・中学2年生ともに保護者に比べて大学進学まで希望する割合が低い傾向にある。また、非困窮世帯に比べ、困窮世帯の児童生徒では大学進学まで希望する割合が低い傾向にあり、特に小学5年生で経済状況による差が顕著な状況となっている。

なお、学校の授業について『わからない』と回答した小学5年生について、進学意識を経済状況別にみたところ、“授業についていくことができていない非困窮世帯の児童”の場合は大学まで希望している児童が約6割（59.8%）であるのに対し、“授業についていくことができていない困窮世帯の児童”の場合は4割弱（35.5%）となっている。経済的な要因に加えて授業がわからない状況にあることで、高度な教育を望まない気持ちが早い段階で芽生えてしまっていることがうかがえる。

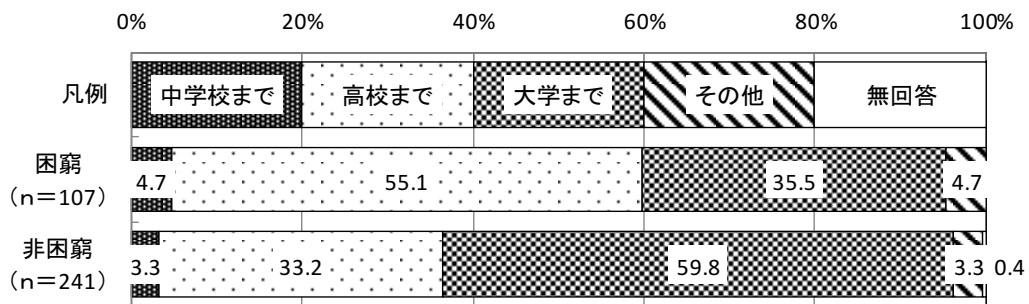
進学の意識(生徒・保護者×経済状況(困窮 n=210、非困窮 n=602))



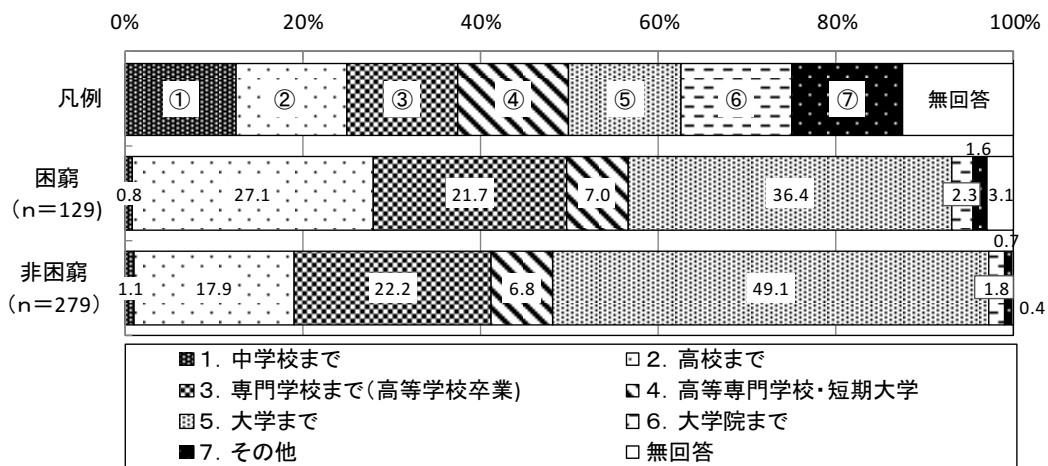
進学の意識(中2生徒・保護者×経済状況(困窮 n=172、非困窮 n=454))



学校の授業がわからない×進学意識(小学5年生)



学校の授業がわからない×進学意識(中学2年生)



○進学意識の理想と現実的な意向、そう考える理由 <中2生徒:問8、問8-1、問8-2>

中学2年生の進学意識について、理想と現実的な意向を比較したところ、現実的な意向は、「大学まで」が13.4ポイント低くなっており、「高校まで」が14.7ポイント高くなっている。

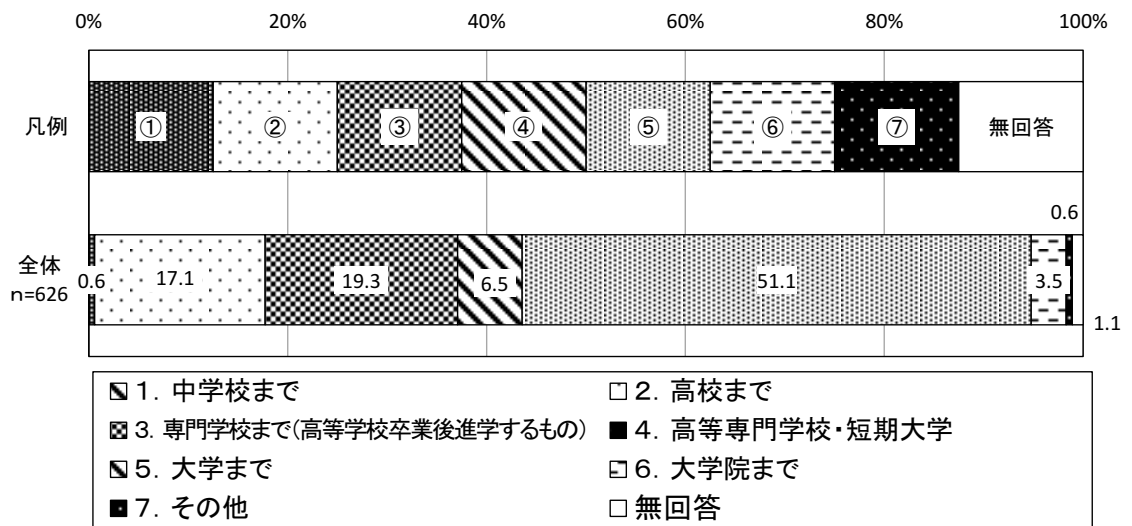
現実的な意向について経済状況別にみると、非困窮世帯に比べて困窮世帯では「大学まで」とする割合が17.5ポイント低く、逆に「中学校まで」や「高校まで」が若干高い傾向にある。

また、そう考える理由を尋ねたところ、「それが自分の希望だから」や「希望する職業につくために必要だと思うから」など、将来を見据えた積極的な回答割合が高い一方、「自分の学力から考えて」や「普通、その学校まで行くと思うから」といった回答も多い状況にある。

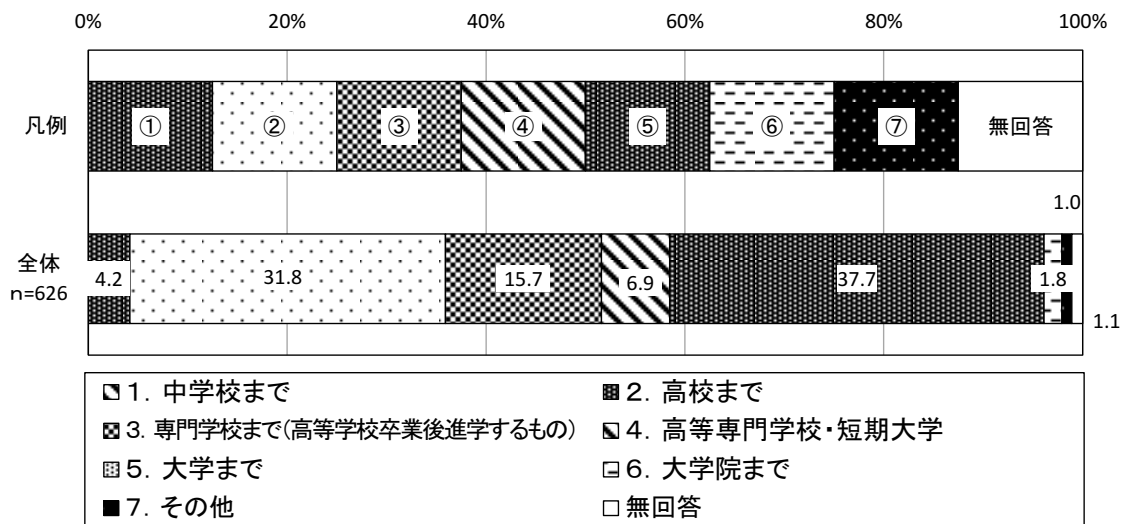
なお、ごく僅かではあるが、「家庭に経済的な余裕がないから」という理由で進学を諦めている状況も見受けられる。

現実的に「中学校まで」や「高校まで」と回答した生徒について、そう考える理由を経済状況別にみたところ、「自分の学力から考えて」や「普通、その学校まで行くと思うから」、「それが自分の希望だから」を理由として挙げている生徒が多い状況にあり、経済状況別では特に大きな差は見受けられなかった。

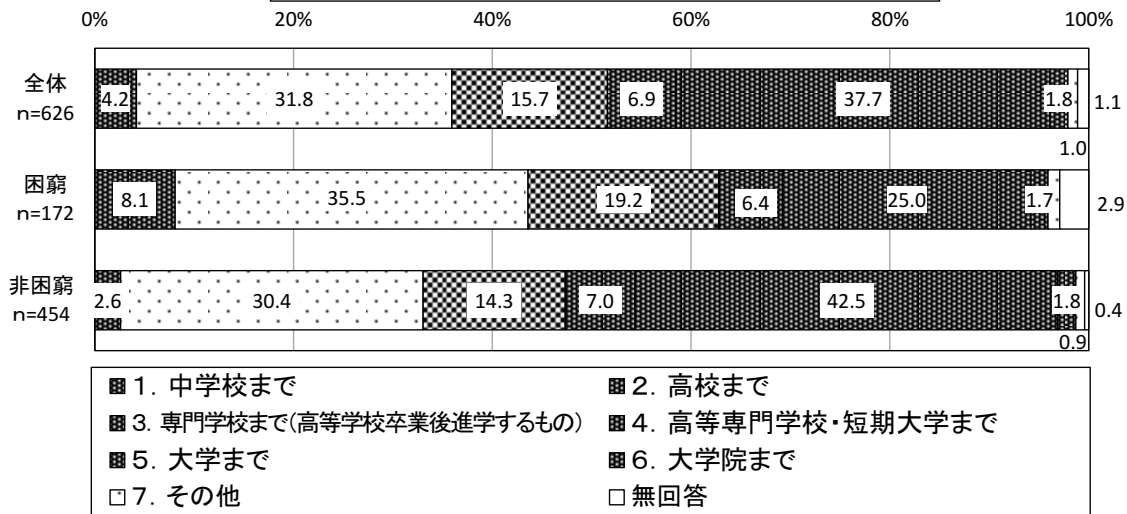
理想的には将来どの学校まで行きたいか(中学2年生)



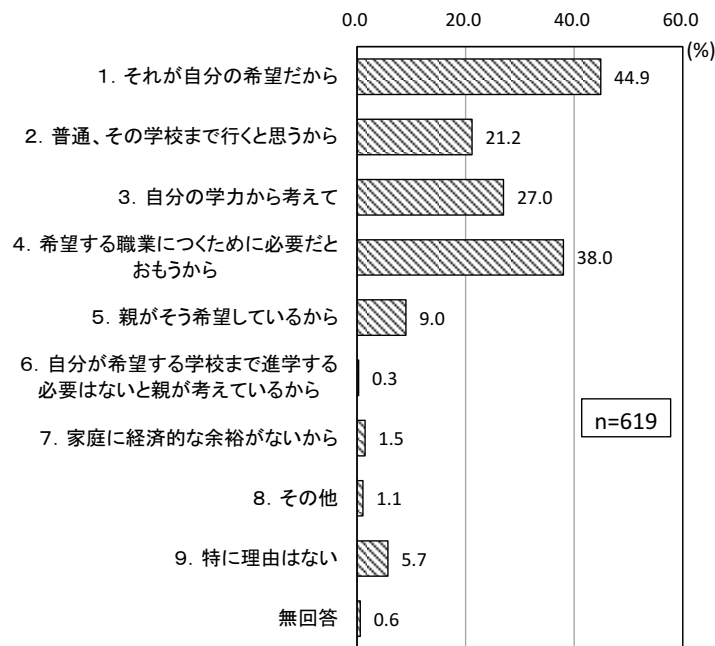
現実的には将来どの学校まで行きたいか(中学2年生)



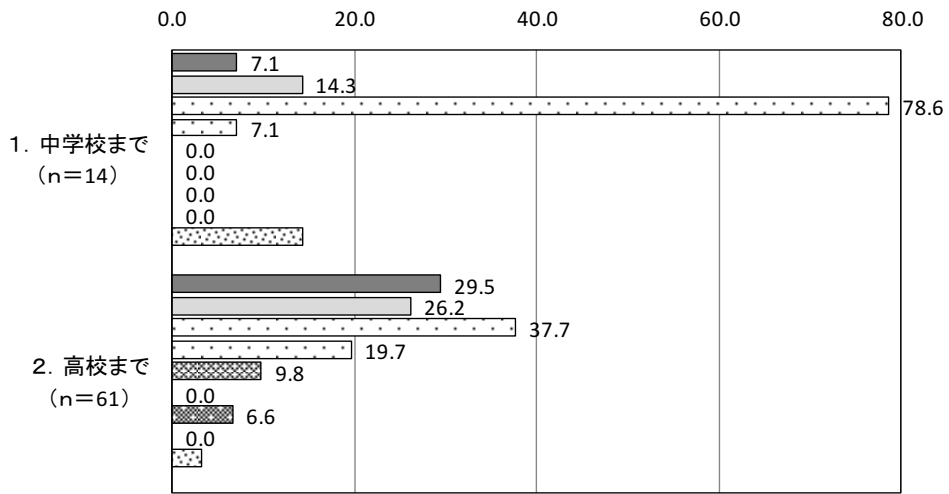
現実的には将来どの学校まで行きたいか×経済状況



そう考える理由

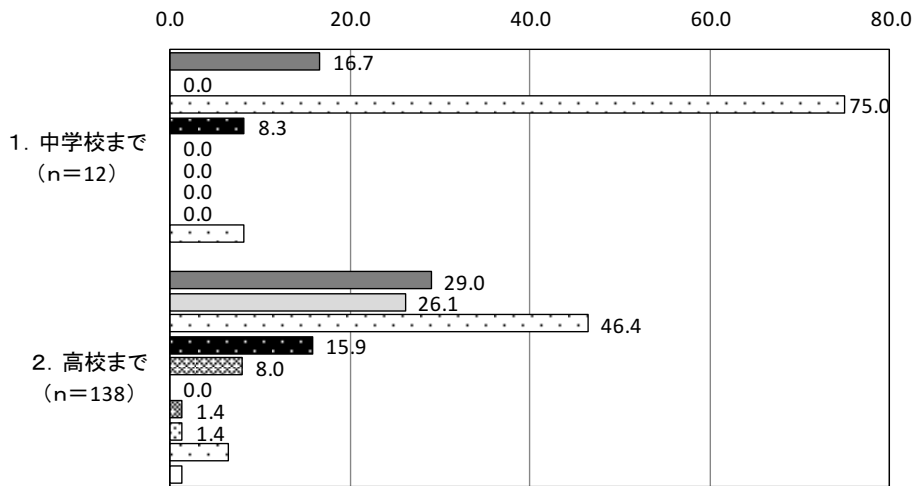


そう考える理由×困窮世帯(n=167)



- 1. それが自分の希望だから
- 2. 普通、その学校まで行くと思う
- 3. 自分の学力から考えて
- 4. 希望する職業につくために必要だと思うから
- ▨ 5. 親がそう希望しているから
- ▨ 6. 自分が希望する学校まで進学する必要はないと親が考えているから
- 7. 家庭に経済的な余裕がないから
- ▨ 8. その他
- ▨ 9. 特に理由はない
- 無回答

そう考える理由×非困窮世帯(n=452)



- 1. それが自分の希望だから
- 2. 普通、その学校まで行くと思う
- 3. 自分の学力から考えて
- 4. 希望する職業につくために必要だと思うから
- ▨ 5. 親がそう希望しているから
- ▨ 6. 自分が希望する学校まで進学する必要はないと親が考えているから
- 7. 家庭に経済的な余裕がないから
- 8. その他
- ▨ 9. 特に理由はない
- 無回答

③友だちとの関係

○友だちとの関係（小学5年生） <小5児童：問5>

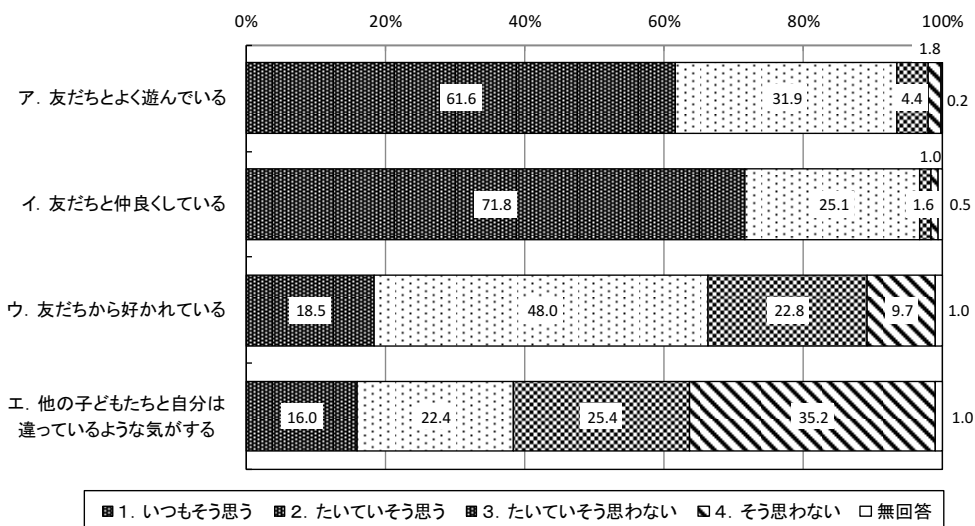
友だちとの関係について、「友だちとよく遊んでいる」「友だちと仲良くしている」「友だちから好かれている」「他の子どもたちと自分は違っているような気がする」の4項目について質問を行った。

小学5年生について、「友だちとよく遊んでいる」や「友だちと仲良くしている」という項目をみると、9割強の児童が『そう思う』と回答しており、ほとんどの児童が肯定的に答えている状況にある。一方で、「友だちから好かれている」をみると、7割弱が『そう思う』と肯定的な回答が大半を占めているものの、『そう思わない』とする否定的な回答が3割強と多くみられた。

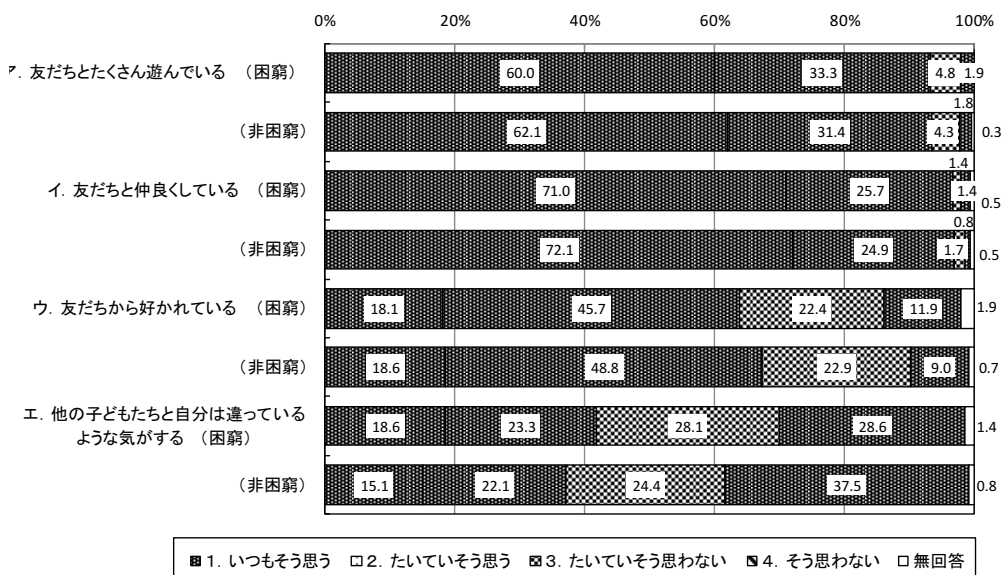
また、「他の子どもたちと自分は違っているような気がする」についてみると、『そう思う』とする回答が4割弱あり、友だちとの関係に違和感を持っている子どもが一定数存在している状況がうかがえる。

なお、友だちとの関係について、経済状況別にみたところ、特に大きい差はみられなかった。

友だちとの関係(小学5年生)



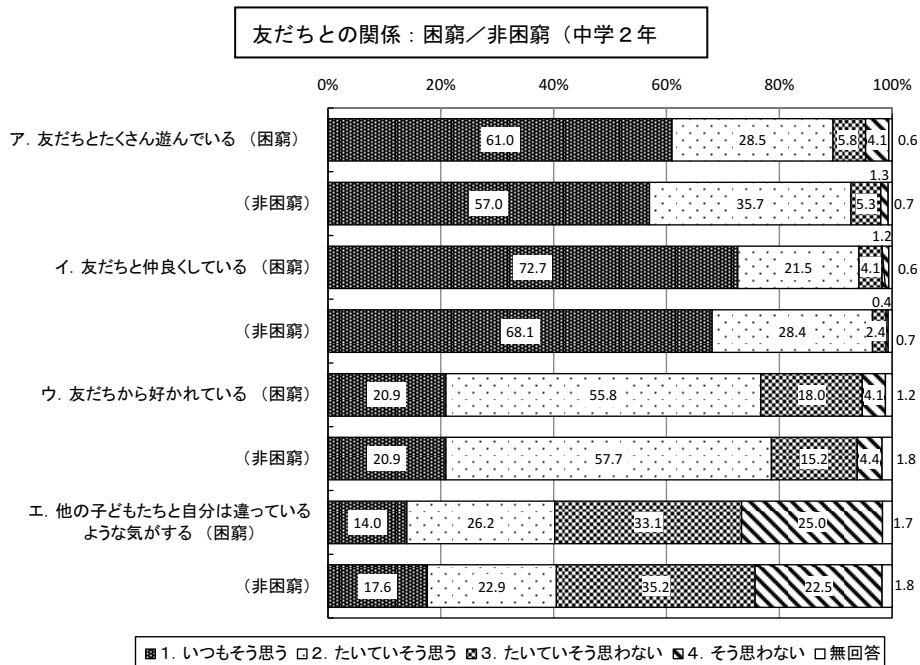
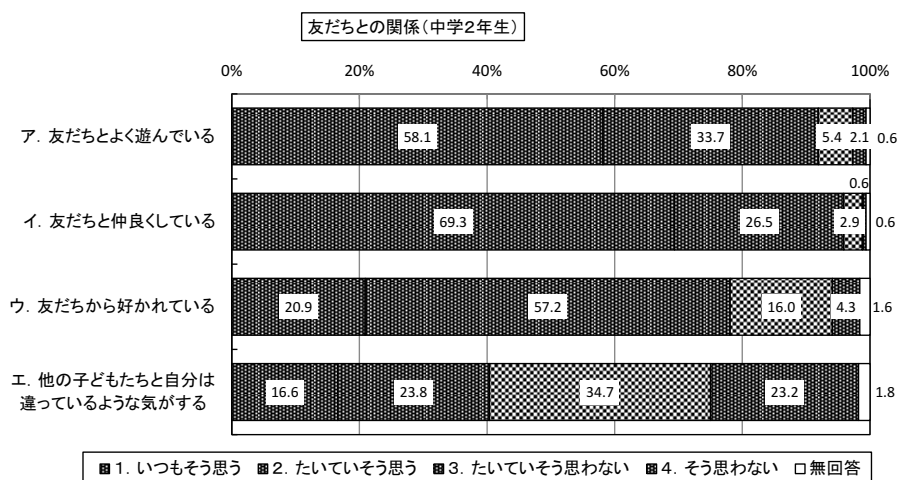
友だちとの関係：困窮／非困窮（小学5年）



○友だちとの関係（中学2年生） <中2生徒：問5>

中学2年生についてみると、小学5年生と概ね同様の傾向となっている。なお、「友だちから好かれている」については、小学生よりも『そう思う』の割合が増えている。

友だちとの関係について経済状況別にみたところ、小学5年生と同様、特に大きい差はみられなかった。



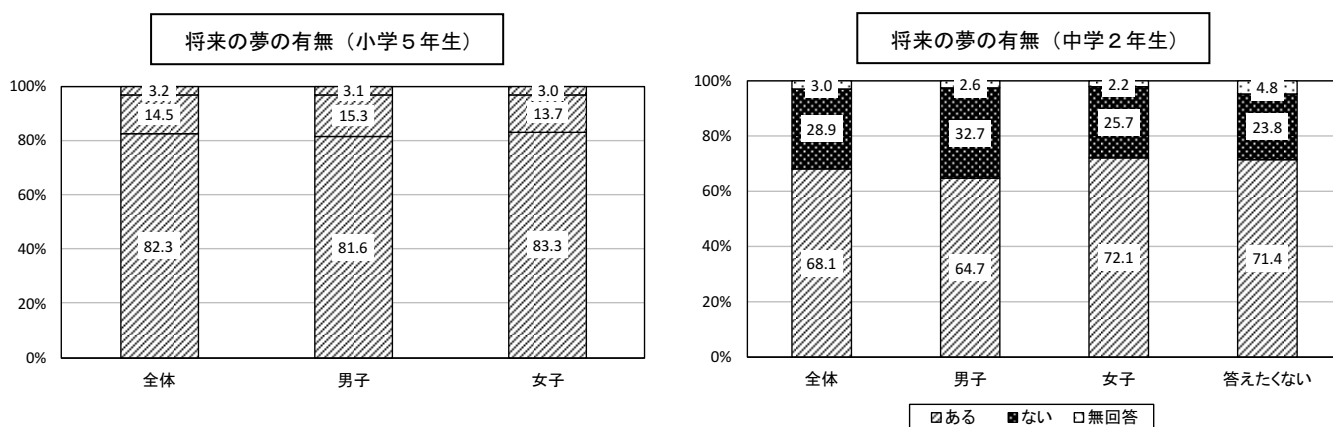
自分のことについて

④将来の夢

○将来の夢の有無 <小5児童：問12、中2生徒：問12>

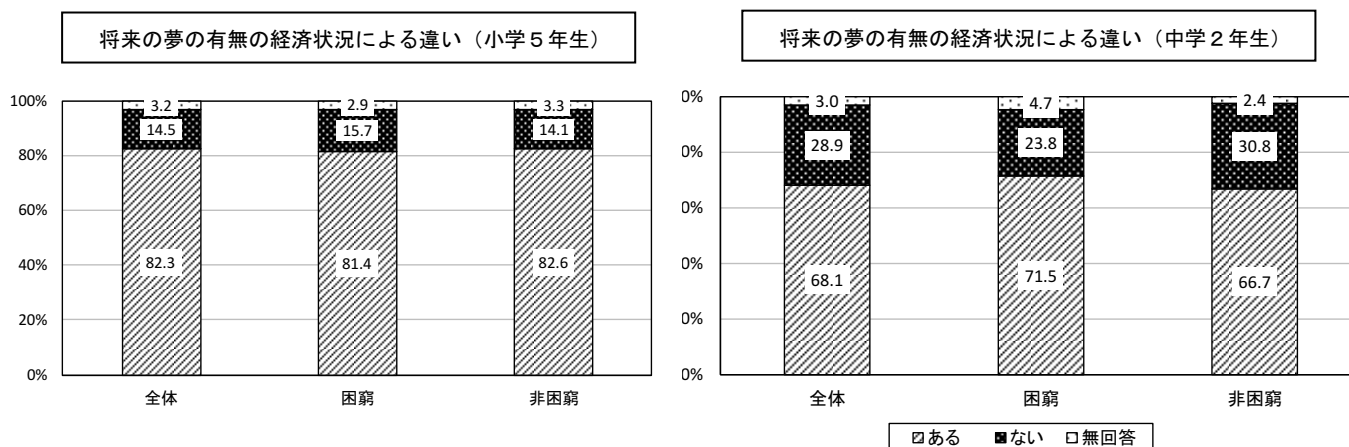
小学5年生と中学2年生本人に将来の夢を尋ねたところ、将来の夢を持つ割合は小学5年生で82.3%、中学2年生で68.1%と、年齢とともに将来の夢が減少する傾向が見受けられた。また、多くの児童生徒が夢を持っている一方で、夢を持っていない割合も15~30%程度見受けられる。

性別で比較すると、小学5年生では男女間の差は僅かに女子の方が夢を持っている割合が高い程度であるが、中学2年生では7.4ポイントの差がみられる。



○将来の夢の経済状況による違い <小5児童：問12、中2生徒：問12>

将来の夢の有無について経済状況別にみたところ、小学5年生では困窮世帯と非困窮世帯でほとんど差はみられず、中学2年生では、困窮世帯の方が将来に夢を持っている生徒の割合が僅かに高い状況にある。家庭の経済状況にかかわらず、多くの児童生徒が夢を持っている状況と言える。



○夢がない理由 <小5児童：問12-1、中2生徒：問12-1>

「将来の夢がない」という児童生徒に対し、その理由を尋ねたところ、小学生で半数程度、中学生で7割強が「具体的に何も思いうかばないから」と回答している。「夢がかなうのが難しいと思うから」といった諦めによる理由も少なからず見受けられる。

将来の夢がない理由

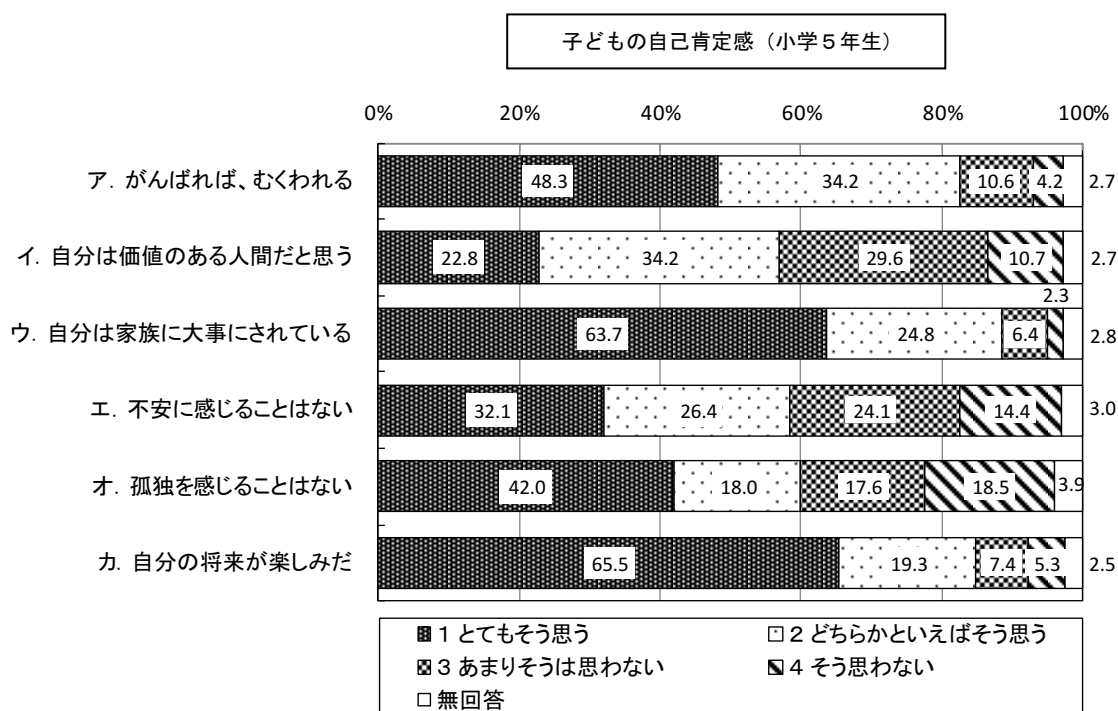
	小学5年生		中学2年生	
	n	%	n	%
1. 夢がかなうのがむずかしいと思うから	18	15.3	14	7.7
2. 具体的に何も思いうかばないから	58	49.2	134	74.0
3. その他	9	7.6	9	5.0
4. わからない	27	22.9	24	13.3
無回答	6	5.1	0	0.0
合計	118	100.0	181	100.0

⑤子どもの自己肯定感

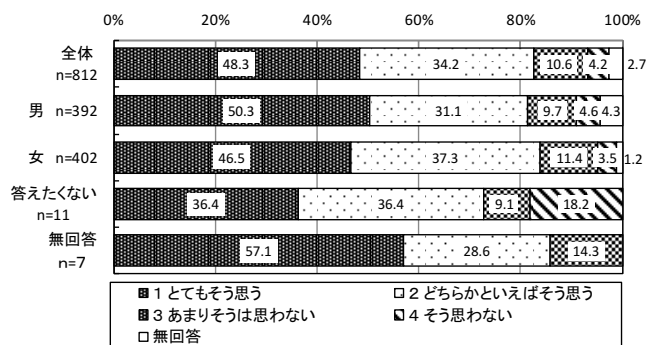
○子どもの自己肯定感（小学5年生） <小5児童：問13>

小学5年生の自己肯定感について各項目の回答をみると、『そう思う』（「1. とてもそう思う」＋「2. どちらかといえばそう思う」）については、「ウ. 自分は家族に大事にされている」（88.5%）や「カ. 自分の将来が楽しみだ」（84.8%）、「ア. がんばれば、むくわれる」（82.5%）といった項目で特に多くなっている。

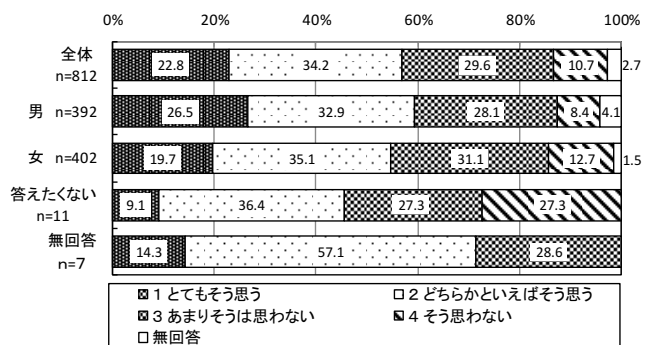
全ての項目で肯定的な回答が多い状況にあるが、一方で、「イ. 自分は価値のある人間だと思う」、「エ. 不安を感じることはない」、「オ. 孤独を感じることはない」の3項目については、『そうは思わない』（「1. あまりそう思わない」＋「4. そう思わない」）という否定的な回答が目立っている。



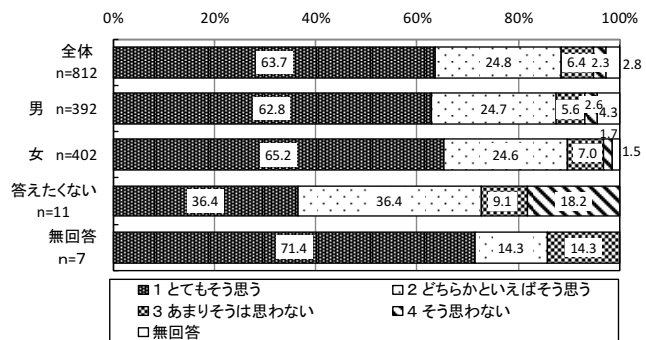
問13 ア. がんばれば、むくわれる×性別



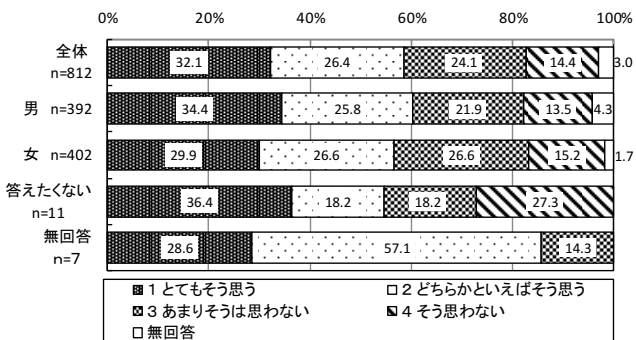
問13 イ. 自分は価値のある人間だと思う×性別



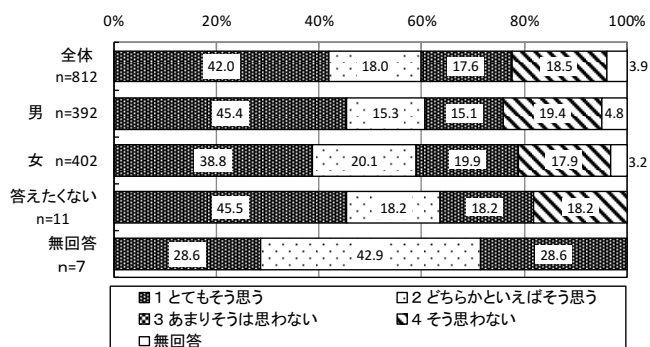
問13 ウ. 自分は家族に大事にされている×性別



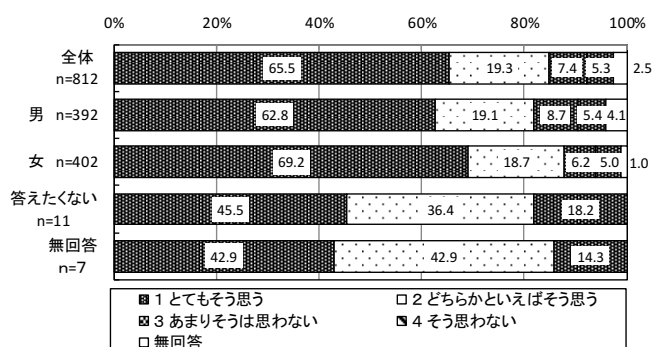
問13 エ. 不安に感じることはない×性別



問13 オ. 孤独を感じることはない×性別



問13 カ. 自分の将来が楽しみだ×性別

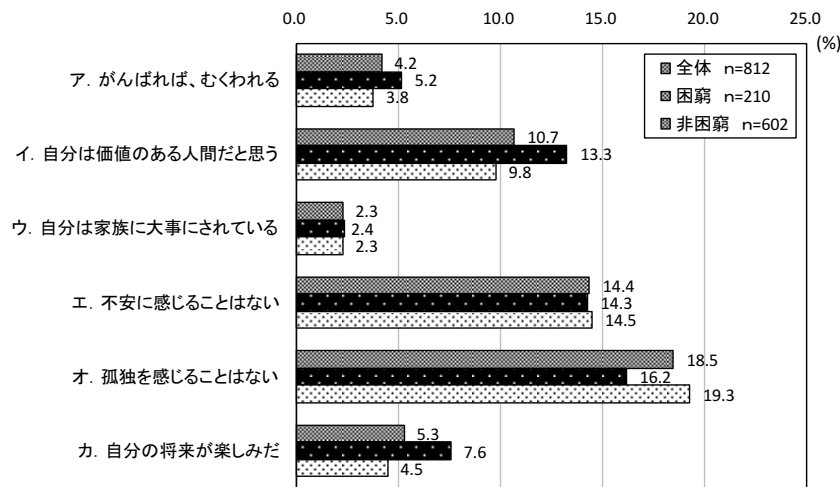


○子どもの自己肯定感「そうは思わない」とした子どもの割合（小学5年生） <小5児童：問13>

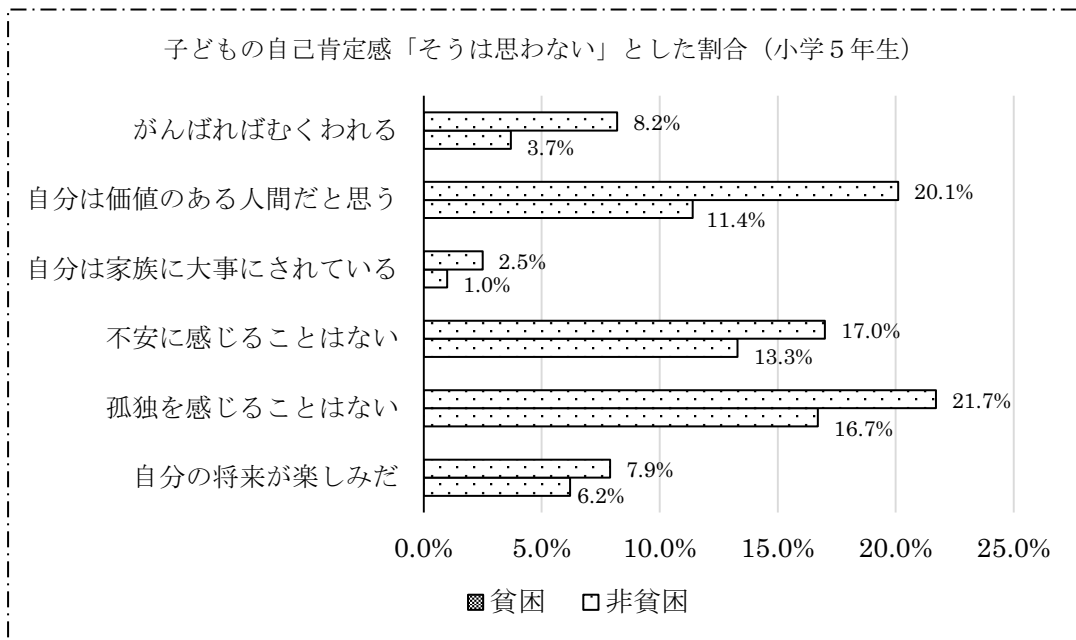
『そうは思わない』という回答について、経済状況による比較をみると、いくつかの項目で経済状況による若干の差がみられた。特に、「自分は価値のある人間だと思う」という質問については、困窮世帯において『そうは思わない』とする否定的な回答が目立つ状況にあり、非困窮世帯を3.5ポイント上回っている。

なお、県調査では、全ての質問において困窮世帯で“否定的な回答”が突出して高い状況にあるなど、経済状況が自己肯定感に与える影響が顕著な状況もみられたが、本市調査では経済状況による差は県調査ほど大きくない状況にあると言える。

子どもの自己肯定感「そうは思わない」とした割合(小学5年生)



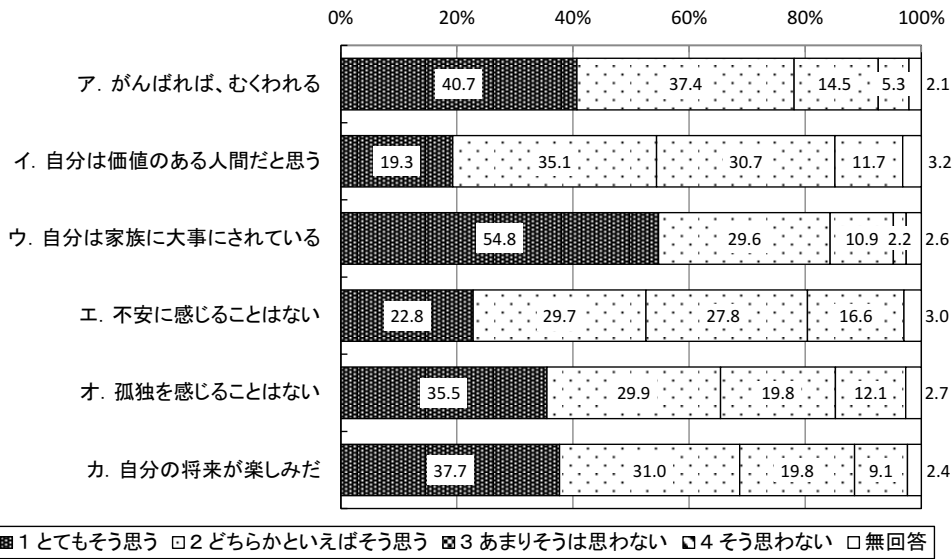
■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）



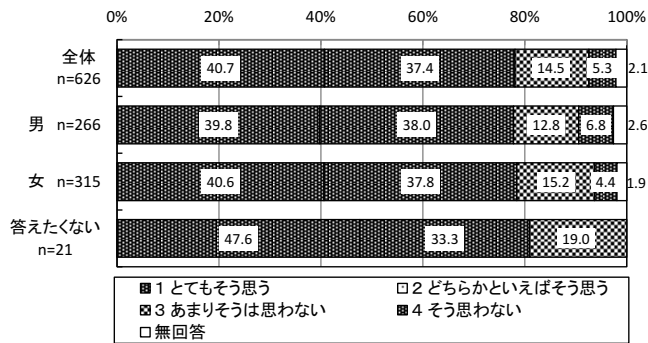
○子どもの自己肯定感（中学2年生） <中2生徒：問13>

中学2年生の自己肯定感について各項目の回答をみると、全ての項目で『そう思う』という肯定的な回答の方が多く状況にあるものの、小学校5年生に比べて肯定的な回答が少なくなる。
性別による比較をみたところ、男子は「イ. 自分は価値のある人間だと思う」、「オ. 孤独を感じることはない」と思う割合が高く、女子は「ウ. 自分は家族に大切にされている」と思う割合が高い傾向にある。

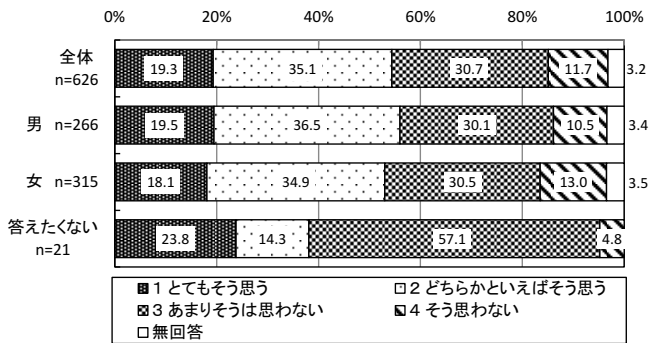
子どもの自己肯定感（中学2年生）



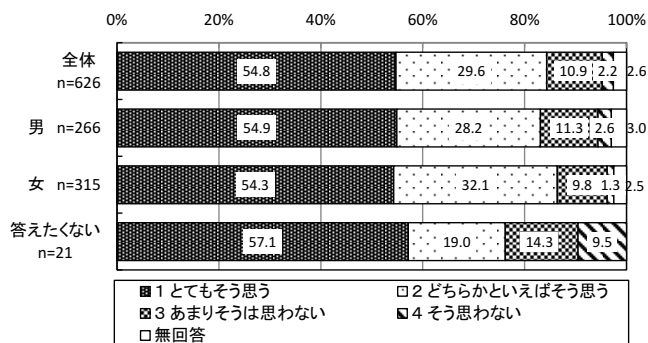
問13 ア. がんばれば、むくわれる×性別



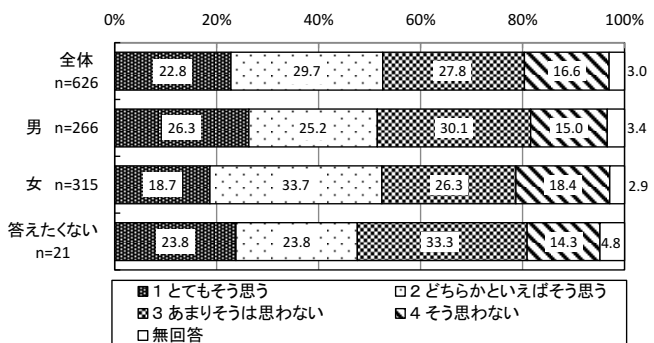
問13 イ. 自分は価値のある人間だと思う×性別

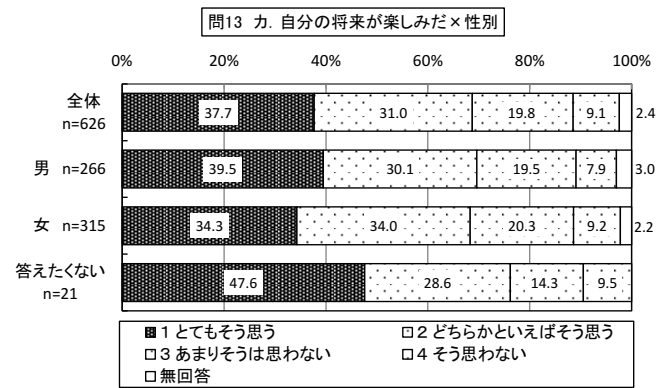
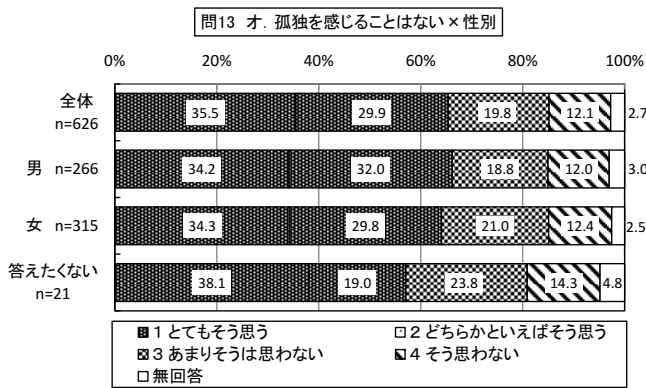


問13 ウ. 自分は家族に大切にされている×性別



問13 エ. 不安を感じることはない×性別

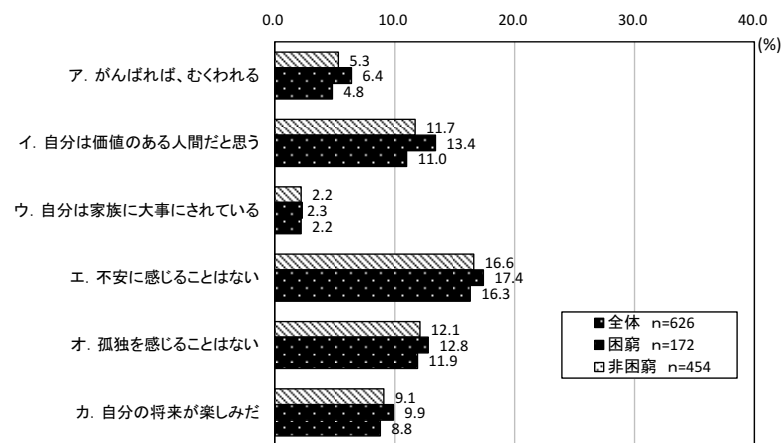




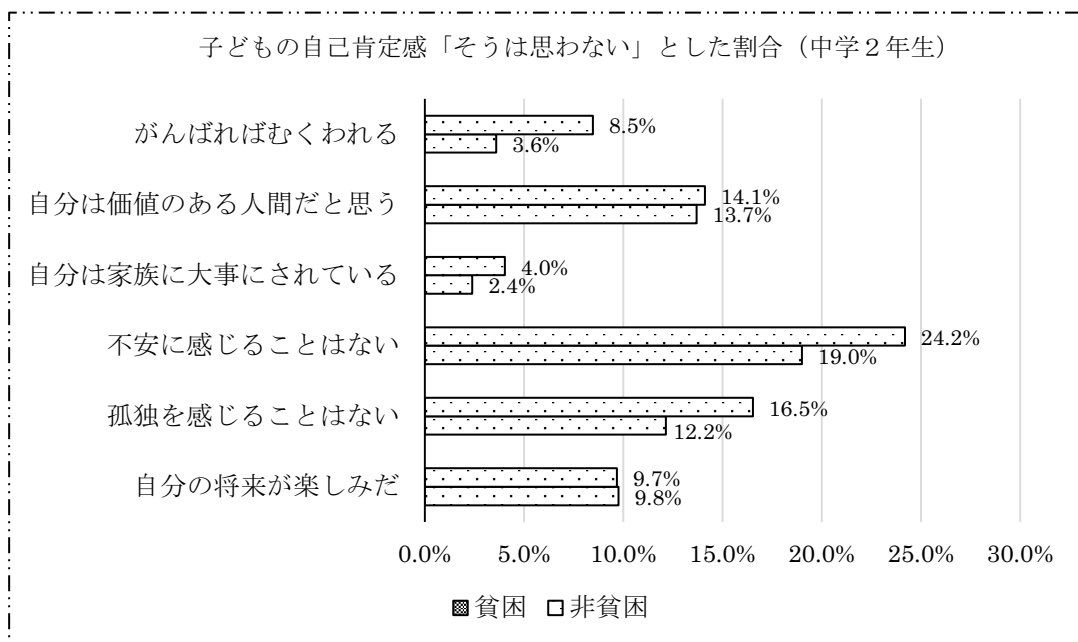
経済状況による比較をみると、大きな差はみられないものの、困窮世帯の方が『そうは思わない』という否定的な回答が全ての項目で上回っており、経済状況が自己肯定感に少なからず影響していることがうかがえる。

なお、小学5年生と同様、本市調査では経済状況による差は県調査ほど大きくない状況にあると言える。

子どもの肯定感「そうは思わない」とした割合(中学2年生)



参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）



⑥虫歯の状況

○虫歯の本数について <小5児童：問16、中2生徒：問16、小5保護者：問33、中2保護者：問33>

児童生徒に虫歯の本数を尋ねたところ、小学5年生では、「虫歯はまったくない（0本）または、すべて治療済み」が6割弱（57.0%）で多いものの、『虫歯がある』（「2. 1～2本」+「3. 3～4本」+「4. 5本以上」）と回答した割合が約3割（29.5%）みられる。

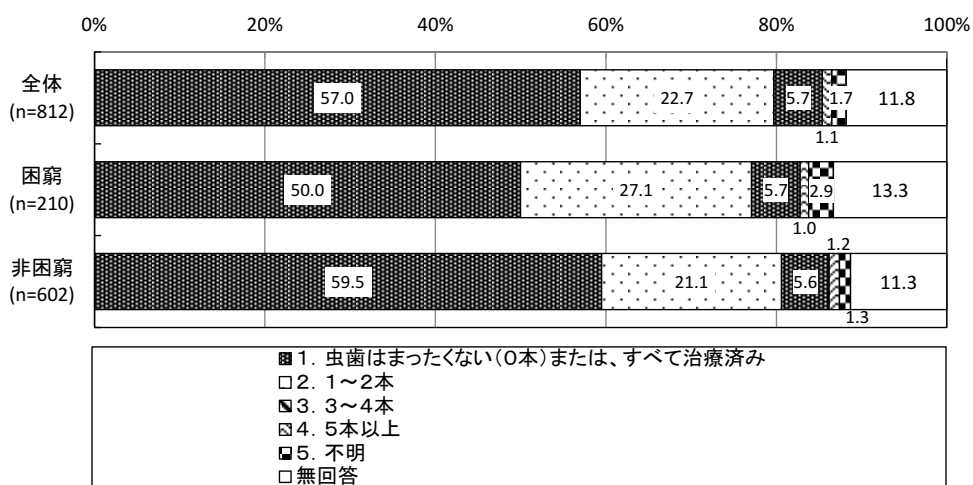
中学2年生では、「1. 虫歯はまったくない（0本）または、すべて治療済み」が6割弱（57.3%）で多いものの、『虫歯がある』と回答した割合が3割強（31.7%）みられる。なお、無回答の割合が約1割（9.3%）と、他の設問に比べて多くなっており、自分の歯の状況を認識していない、あるいは答えたくないという気持ちが表れたものと推察される。

小学5年生・中学2年生ともに、割合は少ないものの、5本以上の虫歯がある生徒が若干名みられる。

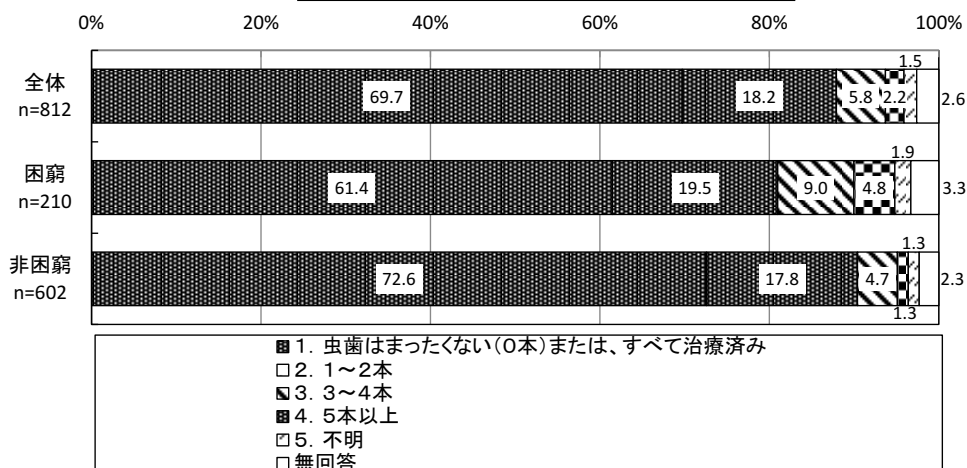
また、経済状況別でみると、小学5年生・中学2年生ともに非困窮世帯と比べて困窮世帯では「虫歯はまったくない（0本）または、すべて治療済み」の割合がそれぞれ低くなっている。

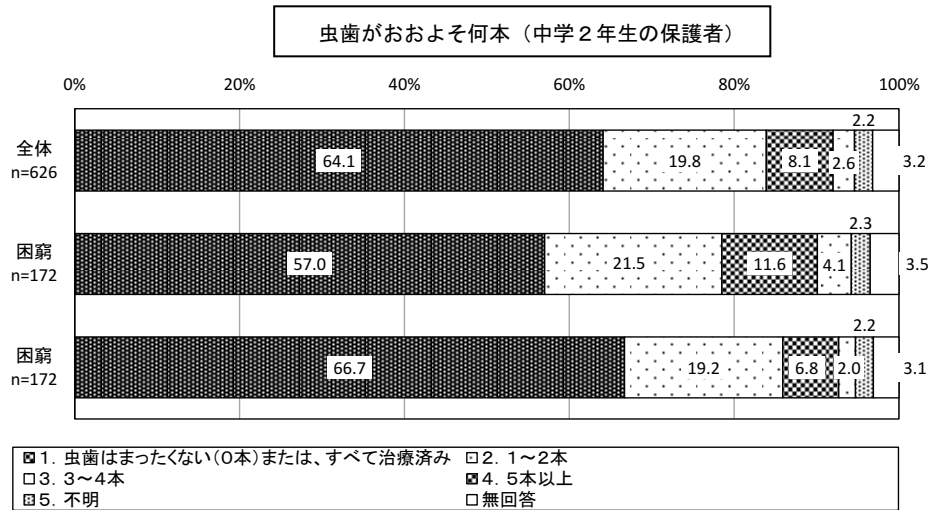
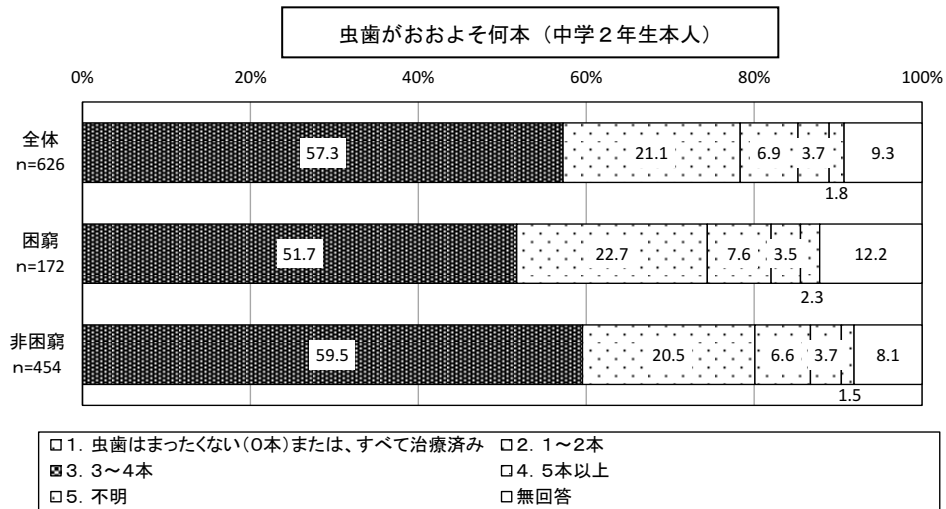
なお、児童生徒の保護者に対し、お子さんの虫歯の本数について尋ねたところ、無回答を除いて見た場合、児童生徒の回答とさほど大きな乖離はなく、多くの保護者が子どもの虫歯の本数を概ね把握できていることがうかがえる。

虫歯がおおよそ何本（小学5年生本人）



虫歯がおおよそ何本（小学5年生の保護者）

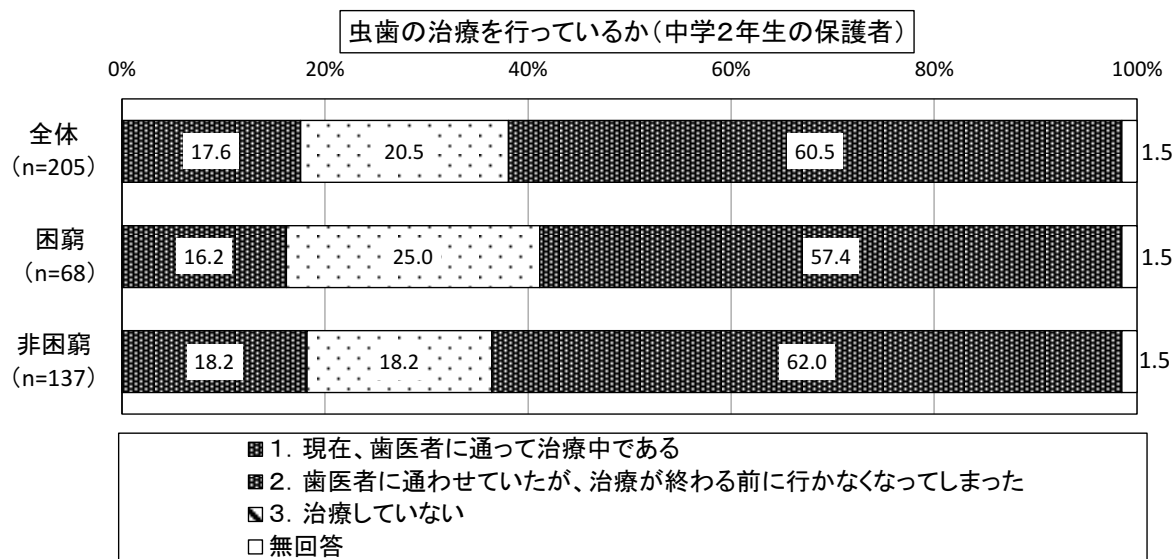
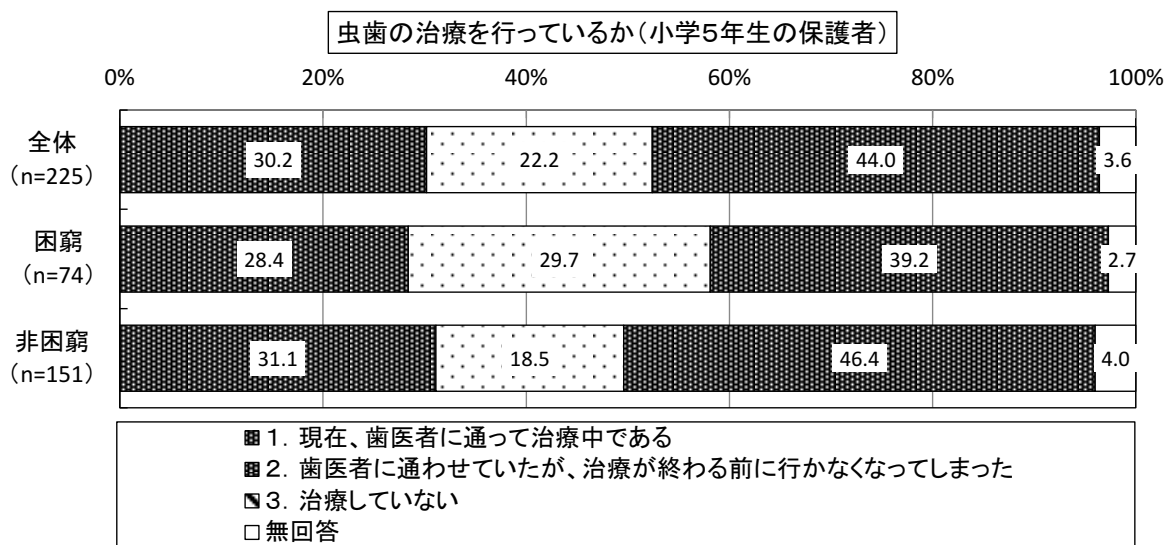




○虫歯の治療状況について <小5保護者：問33-1、中2保護者：問33-1>

お子さんに虫歯があると回答した保護者に対し、虫歯治療の状況を尋ねたところ、「治療していない」が多い状況にあり、小学5年生で4割強、中学2年生で約6割となっている。また、児童生徒ともに「歯医者に通っていたが、治療が終わる前に行かなくなってしまった」とする回答が2割程度みられる。虫歯があることがわかっているにもかかわらず、大半がそのままにしている状況にある。

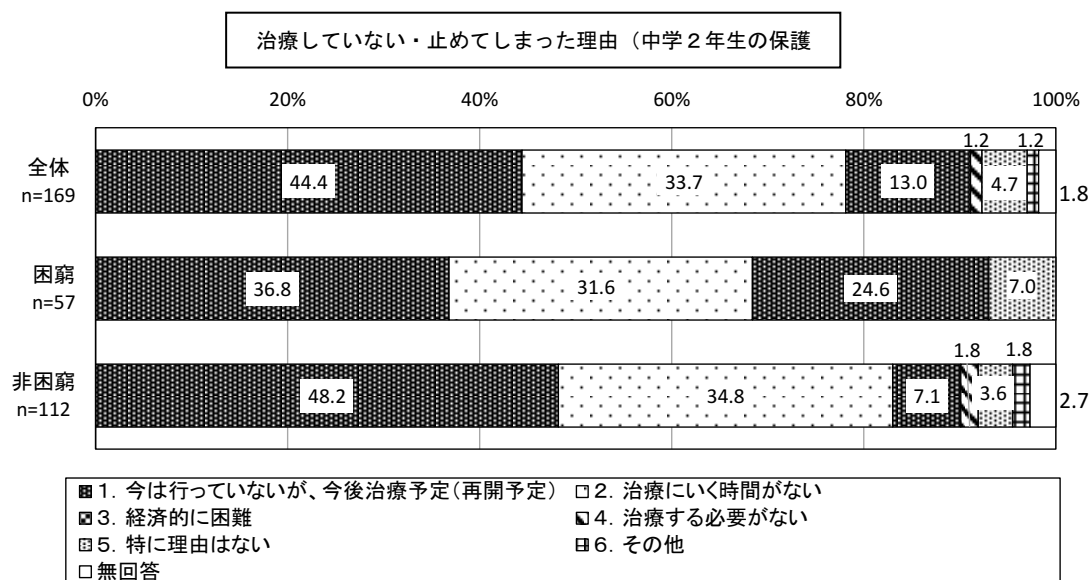
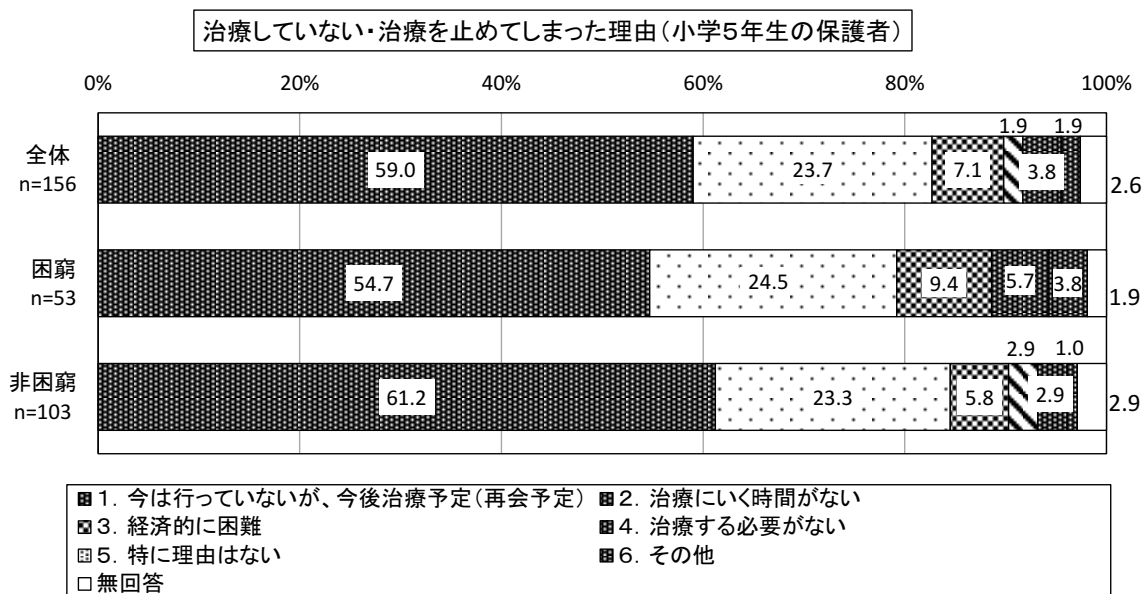
なお、経済状況別にみると、困窮世帯において「歯医者に通わせていたが、治療が終わる前に行かなくなってしまった」とする割合が高い状況にあり、小学5年生では11.2ポイント、中学2年生では6.8ポイント高くなっている。



○虫歯の治療をしていない・止めてしまった理由状況 <小5保護者：問33-1(2)、中2保護者：問33-1(2)>

治療していない・治療を止めてしまったと回答した方に理由を尋ねたところ、小学校5年生・中学校2年生ともに「今は行っていないが、今後治療予定（再開予定）」が最も高く、次いで「治療に行く時間がない」、「経済的に困難」と続いている。また、小学校5年生・中学校2年生ともに「特に理由はない」が少なからずみられ、“保護者の無関心”が懸念される状況にある。

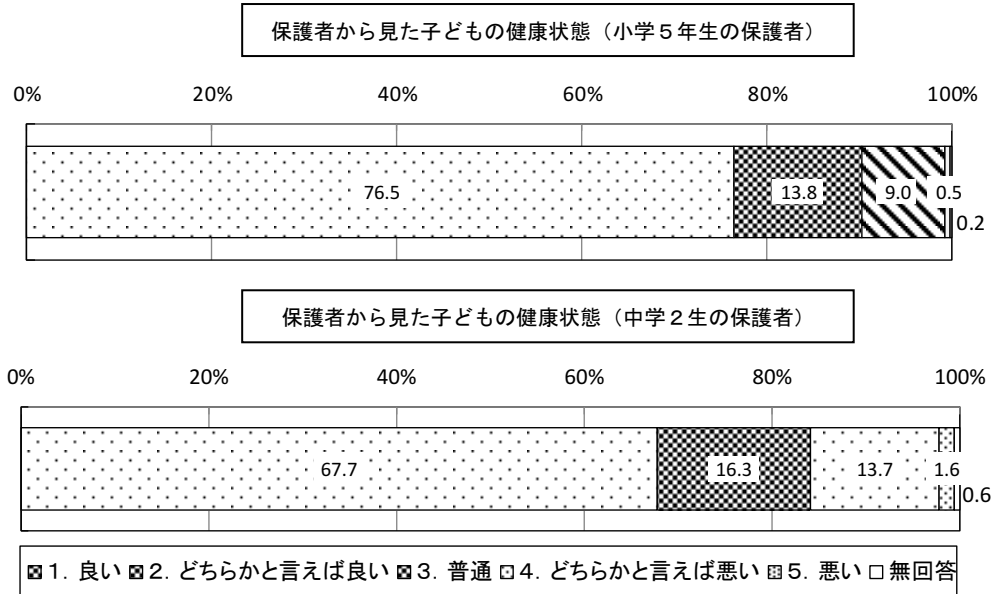
経済状況別にみると、中学2年生の困窮世帯において「経済的に困難」という回答割合が非困窮世帯の3倍近くになっている。また、小学校5年生・中学校2年生ともに困窮世帯において「特に理由はない」の割合が若干高くなっている。



⑦健康状態

○お子さんの健康状態（保護者） <小5保護者：問34、中2保護者：問34>

保護者に子どもの健康状況を尋ねたところ、小学5年生・中学2年生の保護者ともに、多くの保護者は子どもの健康状況について『良い』と答えている。



○過去1年間の受診抑制（未受診経験） <小5保護者：問35、中2保護者：問35>

お子さんが病気にかかった際の過去1年間の“受診抑制（未受診経験）”の経験について尋ねたところ、ほとんどの保護者が「ない」と回答しており、小学5年生の保護者で9割弱、中学2年生の保護者で8割強となっている。一方で、1～2割弱の方が“受診抑制（未受診経験）”の経験が「ある」と回答している状況にある。

経済状況別にみたところ、小学5年生・中学2年生ともに困窮世帯の方が受診抑制（未受診経験）をした割合が高くなっている。

過去一年間において、子どもを医療機関に受診させなかった経験（小学5年生の保護者）

	小学5年生			
	件数	割合	困窮 (%)	非困窮 (%)
1. ある	88	10.8	15.7	9.1
2. ない	711	87.6	82.9	89.2
無回答	13	1.6	1.4	1.7

過去一年間において、子どもを医療機関に受診させなかった経験（中学2年生の保護者）

	中学2年生			
	件数	割合	困窮 (%)	非困窮 (%)
1. ある	97	15.5	22.7	12.8
2. ない	514	82.1	74.4	85.0
無回答	15	2.4	2.9	2.2

○受診抑制（未受診経験）と子どもの健康状態の関係 <小5保護者：問35×問34、中2保護者：問35×問34>

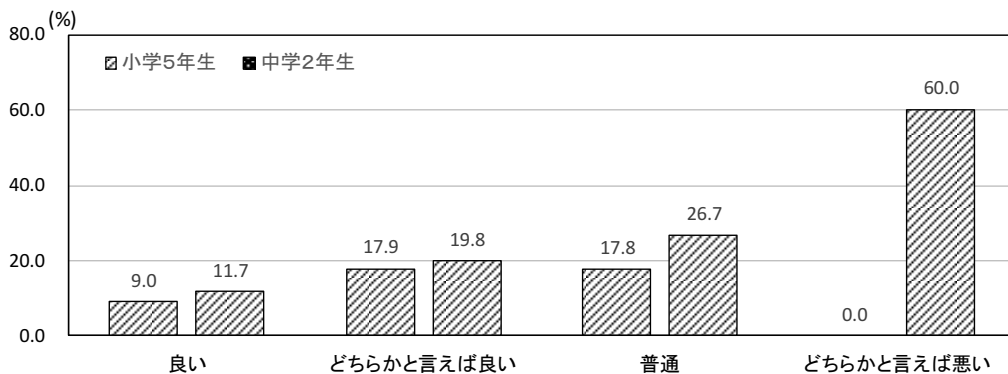
県調査と比較するため、受診抑制（未受診経験）があった割合を子どもの健康状態別に集計した結果、以下のようになっている。（なお、「5. 悪い」の回答については、度数が少ないため「4. どちらかと言えば悪い」に合算して算出を行った。）

小学5年生の児童に関して「（どちらかと言えば）悪い」場合の割合は0.0%となっており、健康状態が悪い場合に受診抑制は生じていない状況が見受けられる。なお、「（どちらかと言えば）悪い」という回答自体が少ないため一概には言えないが、本市では小学校卒業前までの児童であれば、こども医療費助成の対象として通院にかかる自己負担分が1千円、入院費は全額助成となるため、これらの制度の影響で小学5年生児童には受診抑制が生じにくい可能性もあると思われる。

一方、中学2年生の場合、子どもの健康状態が悪いほど受診抑制が行われる割合が増えていく傾向にある。

なお、健康状態が「（どちらかと言えば）悪い」場合の受診抑制の経験を沖縄県調査と比較してみると、小学5年生の場合、沖縄県調査は46.2%であるため、医療費助成の効果が現れている可能性もうかがえる。しかしながら、中学2年生の場合、沖縄県調査の42.1%に対して本市調査では60.0%となっており、健康状態が悪い際の受診抑制が顕著な状況にある。

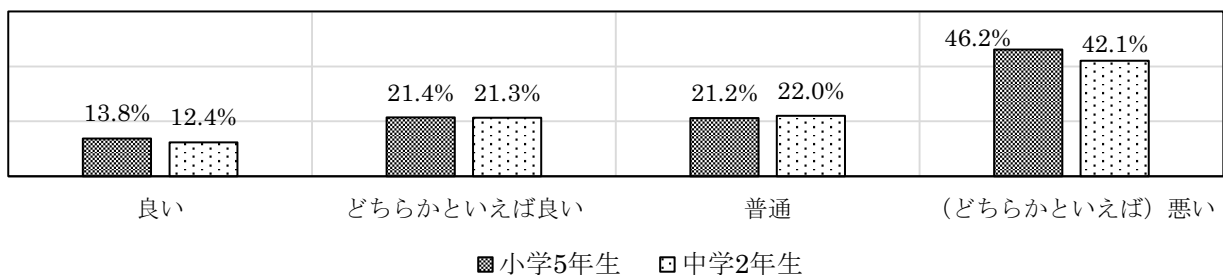
子どもの健康状態×医療機関未受診状況



※医療機関への未受診経験「ある」のみを抽出し、健康状態で「悪い」「どちらかと言えば悪い」を合算。母数は無回答を除いた数。

■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）

子どもの健康状況別受診抑制



⑧物品の所有状況・所有希望

○物品の所有状況 <小5児童：問17、中2生徒：問17>

自分だけの本など、12の物品について所有状況を尋ねたところ、小学5年生で「ある」という回答が多い項目は「エ. 自分専用の勉強机」(67.0%)や「カ. ゲーム機」(66.4%)となっている。一方で、これらについて、それぞれ20.2%、14.4%の生徒が「(持っていないが)欲しい」と回答している。

なお、小学5年生で「(持っていないが)欲しい」という回答が多い物品としては、「サ. 携帯電話やスマートフォン」(46.2%)、「シ. 携帯音楽プレイヤーなど」(41.0%)、「ウ. インターネットにつながるパソコンやタブレット」(31.8%)となっている。

中学2年生で「ある」という回答が多い項目は「エ. 自分専用の勉強机」(75.6%)や「ウ. インターネットにつながるパソコンやタブレット」(73.6%)となっている。一方で、これらについて、それぞれ12.5%、18.8%の生徒が「2. (持っていないが)欲しい」と回答している。

なお、「(持っていないが)欲しい」という回答が多い物品としては、「サ. 携帯電話やスマートフォン」(31.3%)、「シ. 携帯音楽プレイヤーなど」(29.2%)、「イ. 子ども部屋」(27.3%)となっている。

物品の所有状況 (小学5年生)

n=812

		1. ある	持っていない		無回答
			2. ほしい	3. ほしくない	
ア. 自分だけの本(教科書やマンガはのぞく)	件数	508	132	153	19
	割合	62.6	16.3	18.8	2.3
イ. 子ども部屋(きょうだいと使っている場合も含む)	件数	489	238	66	19
	割合	60.2	29.3	8.1	2.3
ウ. インターネットにつながるパソコンやタブレット	件数	433	258	109	12
	割合	53.3	31.8	13.4	1.5
エ. 自分専用の勉強机	件数	544	164	88	16
	割合	67	20.2	10.8	2
オ. スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど)	件数	494	89	214	15
	割合	60.8	11	26.4	1.8
カ. ゲーム機	件数	539	117	139	17
	割合	66.4	14.4	17.1	2.1
キ. たいていの友だちが持っているおもちゃ・雑貨	件数	250	156	386	20
	割合	30.8	19.2	47.5	2.5
ク. 自転車	件数	441	239	114	18
	割合	54.3	29.4	14	2.2
ケ. おやつやちょっとしたおもちゃ・雑貨を買うおこづかい	件数	451	198	150	13
	割合	55.5	24.4	18.5	1.6
コ. 友達が着ているのと同じような服	件数	269	127	402	14
	割合	33.1	15.6	49.5	1.7
サ. 携帯電話やスマートフォン	件数	298	375	122	17
	割合	36.7	46.2	15	2.1
シ. 携帯音楽プレイヤーなど	件数	192	333	274	13
	割合	23.6	41	33.7	1.6

■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）

物品の所有状況（小学校5年生）

n=1177

小学5年生	持っている		持っていない				無回答	
	度数	%	欲しい	%	欲しくない	%		%
自分だけの本	795	67.5	170	14.4	190	16.1	22	1.9
子ども部屋	715	60.7	362	30.8	83	7.1	17	1.4
インターネットパソコン	511	43.4	424	36.0	223	18.9	19	1.6
専用の勉強机	904	76.8	159	13.5	86	7.3	28	2.4
スポーツ用品	814	69.2	119	10.1	233	19.8	11	0.9
ゲーム機	933	79.3	121	10.3	110	9.3	13	1.1
たいていの友だちが持っているおもちゃ	485	41.2	202	17.2	460	39.1	30	2.5
自転車	662	56.2	338	28.7	156	13.3	21	1.8
おこづかい	712	60.5	312	26.5	143	12.1	10	0.8
友だちと同じような服	522	44.4	106	9.0	526	44.7	23	2.0
携帯電話	441	37.5	559	47.5	165	14.0	12	1.0
携帯音楽プレーヤーなど	285	24.2	554	47.1	326	27.7	12	1.0

物品の所有状況（中学2年生）

n=626

		1. ある	持っていない		無回答
			2. ほしい	3. ほしくない	
ア. 自分だけの本(教科書やマンガはのぞく)	件数	397	66	155	8
	割合	63.4	10.5	24.8	1.3
イ. 子ども部屋(きょうだいと使っている場合も含む)	件数	425	171	21	9
	割合	67.9	27.3	3.4	1.4
ウ. インターネットにつながるパソコンやタブレット	件数	461	118	40	7
	割合	73.6	18.8	6.4	1.1
エ. 自分専用の勉強机	件数	473	78	68	7
	割合	75.6	12.5	10.9	1.1
オ. スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど)	件数	432	50	138	6
	割合	69.0	8.0	22.0	1.0
カ. ゲーム機	件数	414	35	167	10
	割合	66.1	5.6	26.7	1.6
キ. たいていの友だちが持っているおもちゃ・雑貨	件数	271	92	253	10
	割合	43.3	14.7	40.4	1.6
ク. 自転車	件数	258	151	210	7
	割合	41.2	24.1	33.5	1.1
ケ. おやつやちょっとしたおもちゃ・雑貨を買うおこづかい	件数	412	155	51	8
	割合	65.8	24.8	8.1	1.3
コ. 友達が着ているのと同じような服	件数	276	83	259	8
	割合	44.1	13.3	41.4	1.3
サ. 携帯電話やスマートフォン	件数	398	196	26	6
	割合	63.6	31.3	4.2	1.0
シ. 携帯音楽プレイヤーなど	件数	286	183	149	8
	割合	45.7	29.2	23.8	1.3

■参考：県調査結果（平成 27 年沖縄県子ども調査結果概要）

物品の所有状況（中学 2 年生）

n=1224

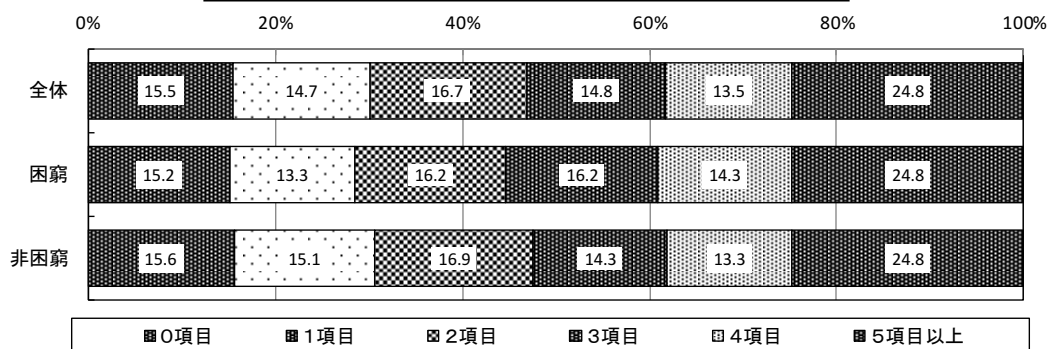
中学2年生	持っている		持っていない				無回答	
	度数	%	欲しい	%	欲しくない	%		%
自分だけの本	795	67.5	170	14.4	190	16.1	22	1.9
子ども部屋	715	60.7	362	30.8	83	7.1	17	1.4
インターネットパソコン	511	43.4	424	36.0	223	18.9	19	1.6
専用の勉強机	904	76.8	159	13.5	86	7.3	28	2.4
スポーツ用品	814	69.2	119	10.1	233	19.8	11	0.9
ゲーム機	933	79.3	121	10.3	110	9.3	13	1.1
たいていの友だちが持っているおもちゃ	485	41.2	202	17.2	460	39.1	30	2.5
自転車	662	56.2	338	28.7	156	13.3	21	1.8
おこづかい	712	60.5	312	26.5	143	12.1	10	0.8
友だちと同じような服	522	44.4	106	9.0	526	44.7	23	2.0
携帯電話	441	37.5	559	47.5	165	14.0	12	1.0
携帯音楽プレーヤーなど	285	24.2	554	47.1	326	27.7	12	1.0

○「所有していないが欲しい」項目の数の割合（％） <小5児童：問17、中2生徒：問17>

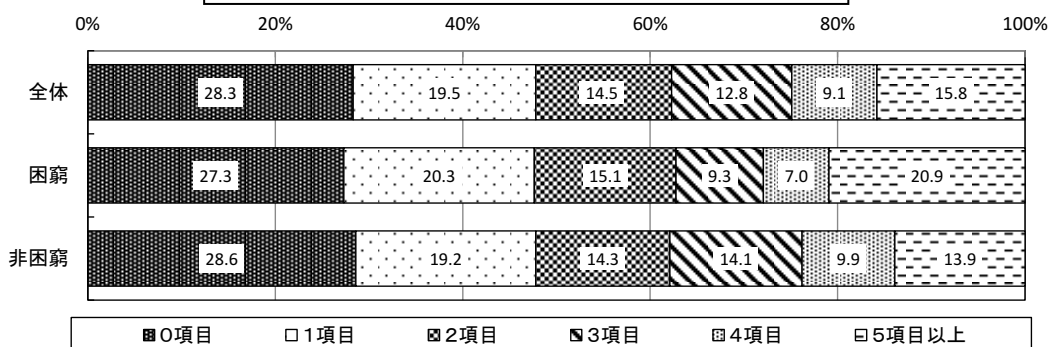
ひとり一人の子どもが「欲しいが持っていない」とした項目数を集計し、“12 項目の中で 5 項目以上ある子どもの割合”をみると、小学 5 年生では 24.8%となっており、経済状況別にみても同じであった。

中学生では 15.8%となっており、経済状況別にみると、非困窮世帯では 13.9%であるのに対し、困窮世帯では 20.9%と 7 ポイントの差がみられる。

「所有していないが欲しい」項目の数の割合（小学 5 年生）



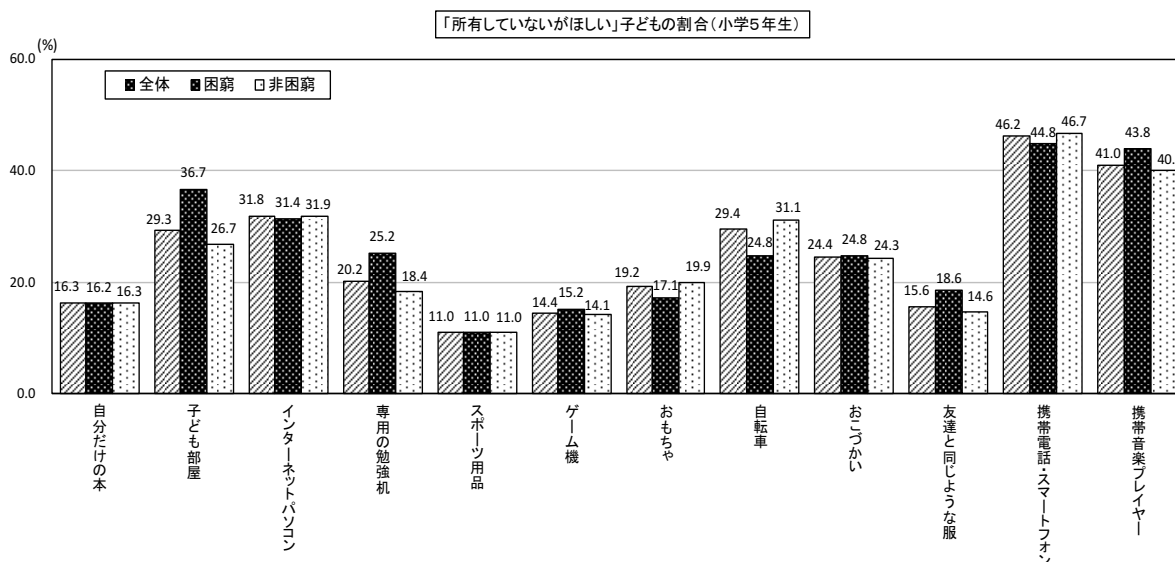
「所有していないが欲しい」項目の数の割合（中学 2 年生）



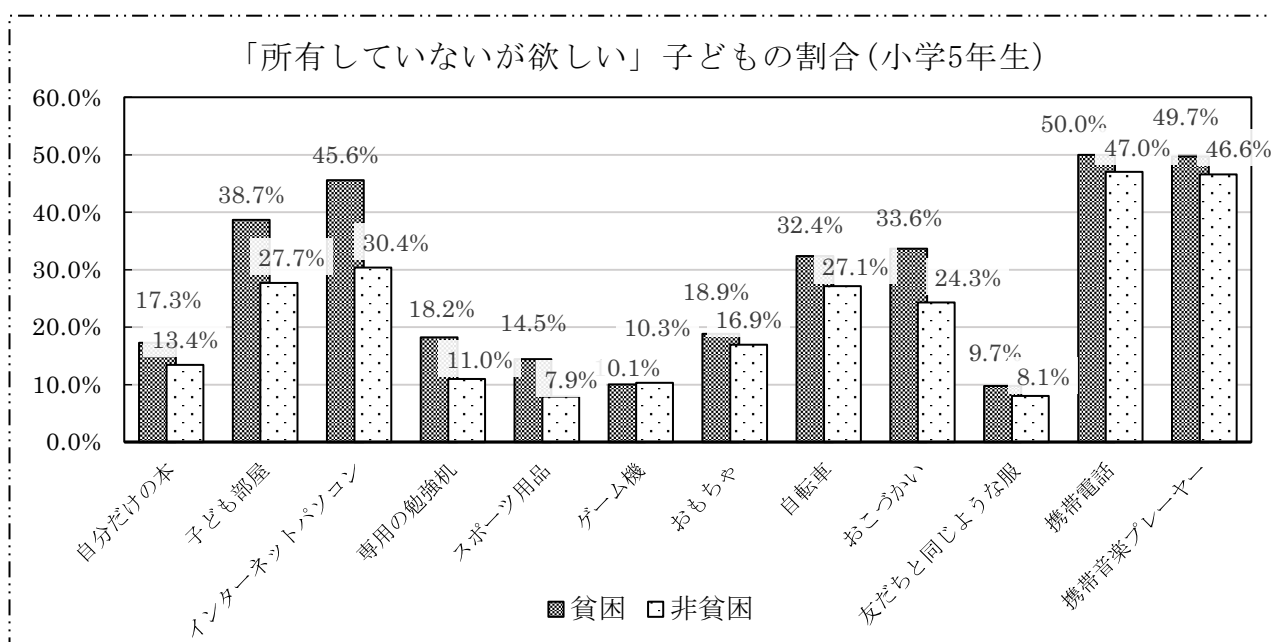
○「所有していないが欲しい」子どもの割合（％）（小学5年生） <小5児童：問17>

小学5年生への調査より、「欲しいが持っていない」とした回答について、項目別に困窮世帯と非困窮世帯の状況を比較したところ、インターネットパソコン、携帯電話・スマートフォンといった項目では困窮世帯と非困窮世帯の数値に大きな差は見受けられない。一方で子ども部屋、専用の勉強机といった項目では困窮世帯で「欲しいが持っていない」とする割合が高くなっており、世帯の経済状況によって家での学習環境やプライバシーの確保を我慢させている状況に差が生じている状況が見受けられる。

なお、本市調査では、困窮世帯・非困窮世帯の差がない項目が多く、一概に家庭の経済状況による影響があるとは言いがたいが、県調査においては全項目で困窮世帯の方が「欲しいが持っていない」とする割合が高く、経済状況により我慢を強いている関係性がうかがえる状況にある。



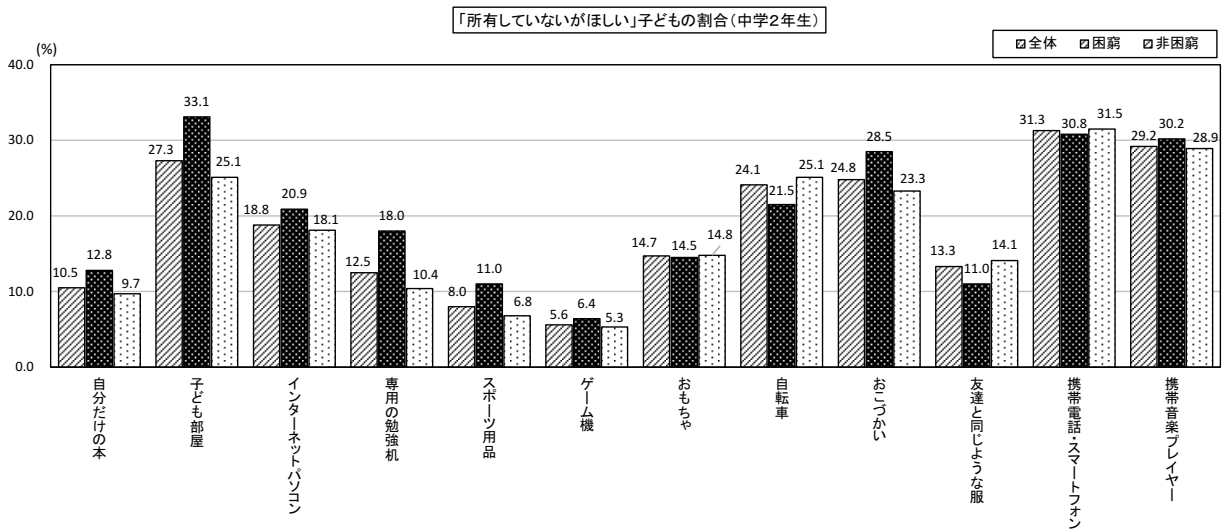
■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）



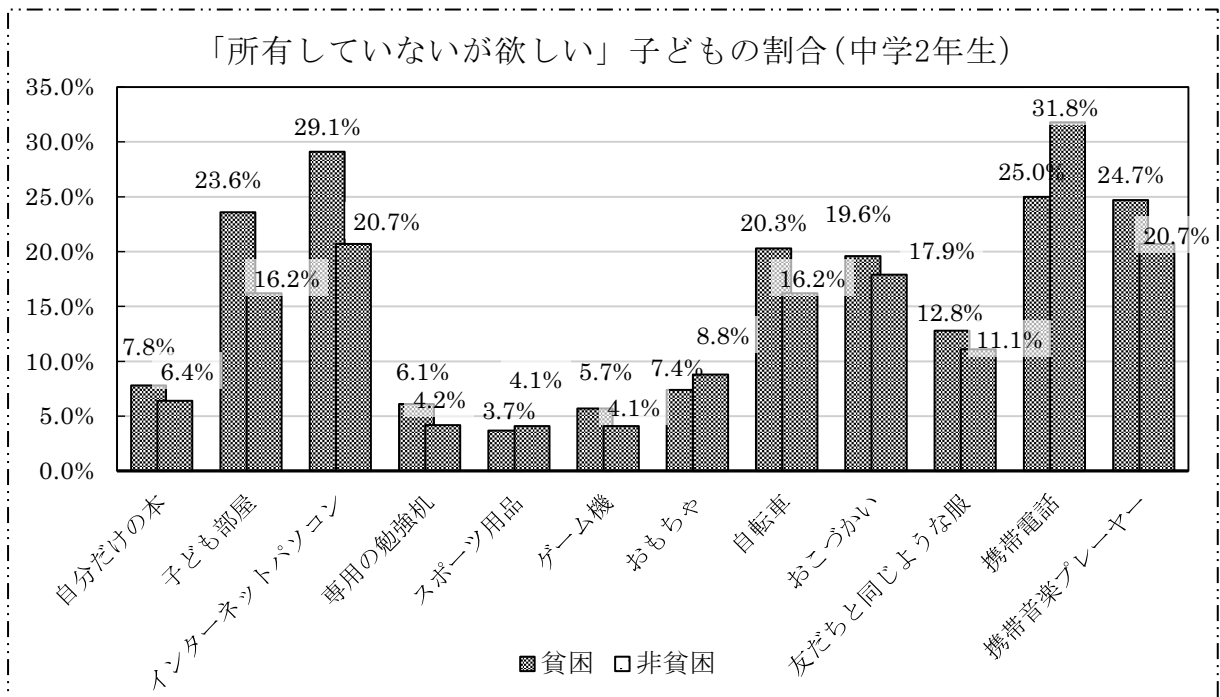
○「所有していないが欲しい」子どもの割合（％）（中学2年生） <中2生徒：問17>

中学2年生への調査より、「欲しいが持っていない」とした回答について、項目別に困窮世帯と非困窮世帯の状況を比較したところ、子ども部屋、専用の勉強机、おこづかい、スポーツ用品といった項目では困窮世帯で「欲しいが持っていない」とする割合が目立ってきている。小学5年生では家庭の経済状況による差があまりみられなかったが、中学2年生では困窮・非困窮世帯で我慢している状況に差がでてきていると言える。

県調査結果をみると、本市調査と同様、子ども部屋については困窮世帯で我慢している状況が目立つ。なお、小学5年生では全項目で困窮世帯の方が「欲しいが持っていない」とする割合が高かったものの、中学2年生では項目によるばらつきが生じている。



■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）



⑨食事

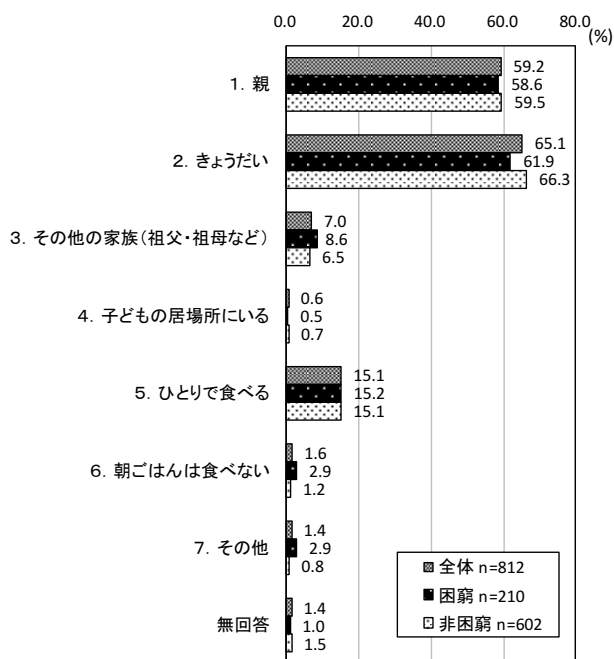
○食事を誰と食べますか（小学5年生） <小5児童：問18-1>

小学5年生に対し、平日と休日の朝食・夕食を誰と食べるかを複数回答で尋ねたところ、夕食に関しては親と食べる割合が一番多いが、朝食に関しては親と食べる割合が減っており、「ひとりで食べる」という児童も一定程度みられる。

なお、平日・休日ともに朝食や夕食を“食べない”という回答も少なからずみられる。“食べない”という回答は朝食の方が多く、平日に朝食を食べずに登校している児童がいるとともに、休日は昼頃に起床しているといった状況がうかがえる。なお、ごく僅かではあるが「夕食を食べない」とする児童もおり、どのような食生活を送っているのか懸念される状況にある。

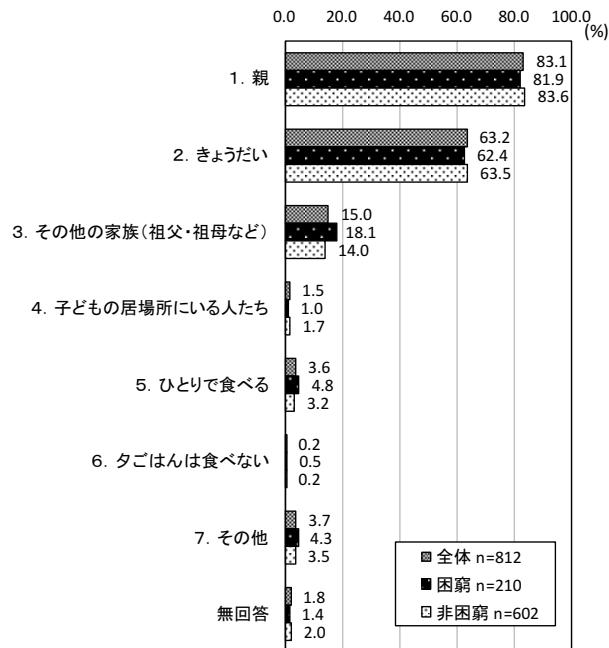
経済状況との比較をみると、僅かではあるが、困窮世帯では親と一緒に食べる割合が低くなっており、逆にその他の家族（祖父・祖母など）や、ひとりで食べるといった回答の割合が高くなっている。また、全ての食事に関し、困窮世帯の方が“食べない”の割合が若干高い傾向にある。

食事を誰と食べるか：平日朝食(小学5年生)



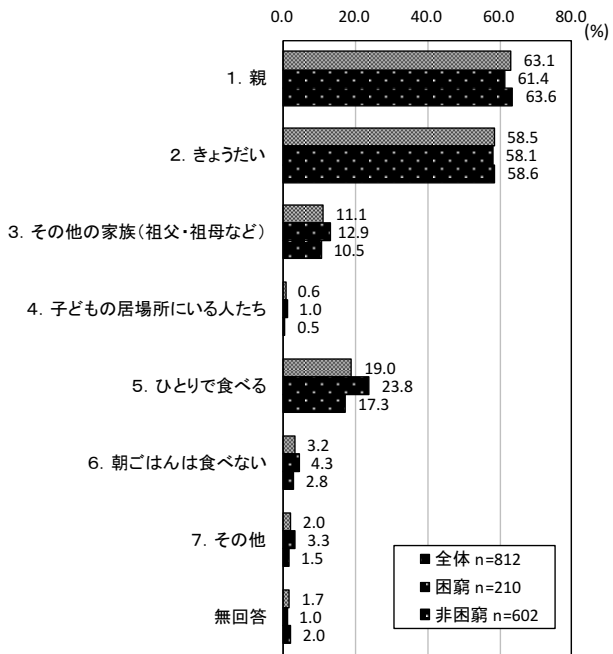
【その他】 家族全員(7件)／先輩、みんなバラバラ(1件)

食事を誰と食べるか：平日夕食(小学5年生)



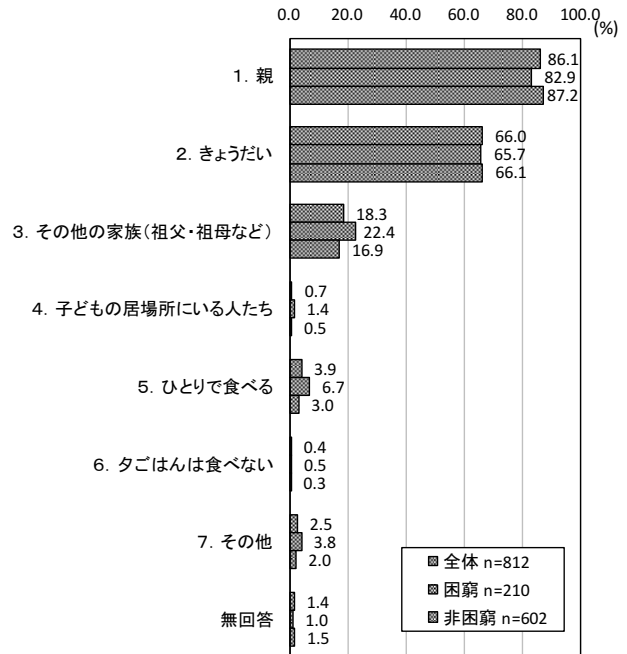
【その他】 家族全員(12人)／友だち(学校や塾など(11人))／いとこ(4件)

食事を誰と食べるか：休日朝食(小学5年生)



【その他】 家族全員(8人)／友だち(5人)／いとこ(2人)

食事を誰と食べるか：休日夕食(小学5年生)



【その他】 家族全員(11人)／いとこ(7人)／友だち(2人)

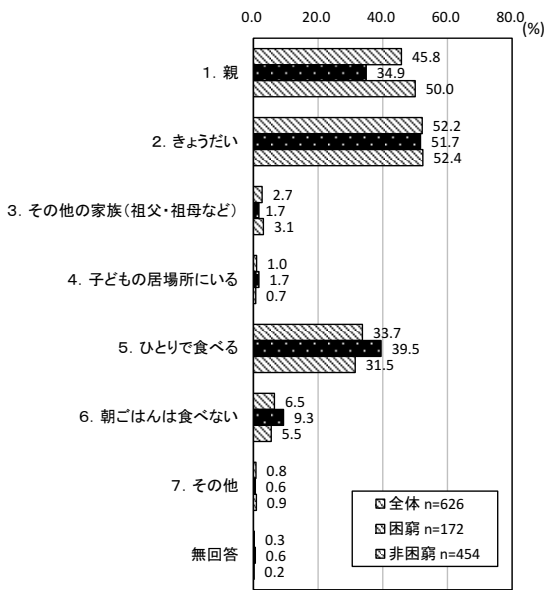
○食事を誰と食べますか（中学2年生） <中2生徒：問18-1>

中学2年生については、小学5年生と比べて親と食べる割合が減っており、反面、「ひとりで食べる」という割合が高くなっている。特に朝食の場合にその傾向が顕著な状況にある。

なお、「食べない」という回答は小学5年生よりも増えている。

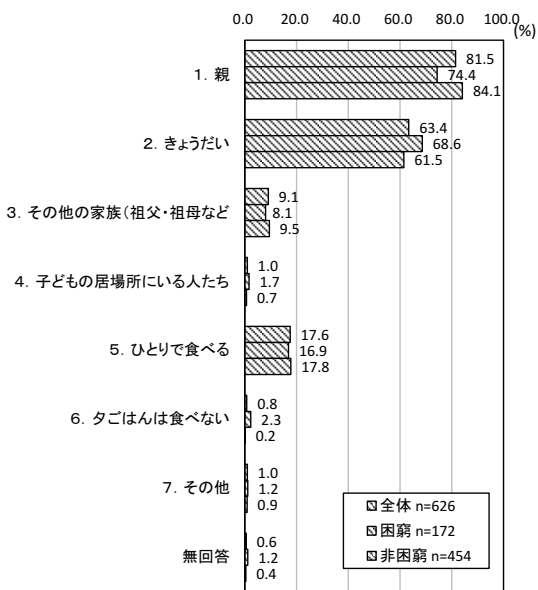
経済状況との比較をみると、困窮世帯では親と一緒に食べる割合が低くなっているのが目立つ状況にある。また、全ての食事に関し、困窮世帯の方が「食べない」の割合が若干高い傾向にあり、平日・休日の朝食でその傾向が顕著な状況にある。

食事を誰と食べるか：平日朝食(中学2年生)



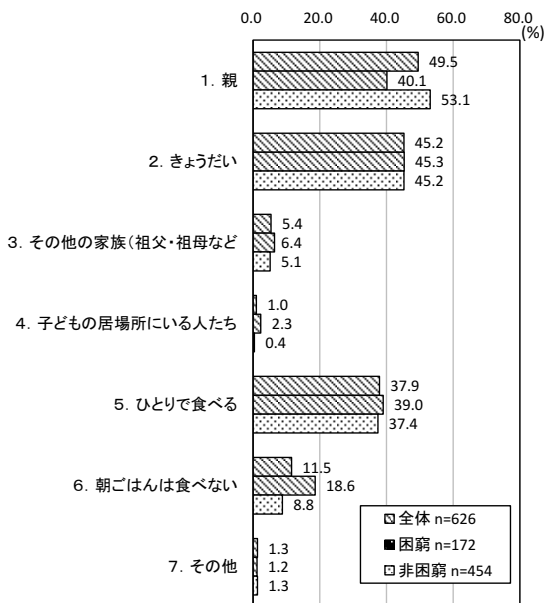
【その他】部活のメンバー(5件)／友だち(2件)

食事を誰と食べるか：平日夕食(中学2年生)



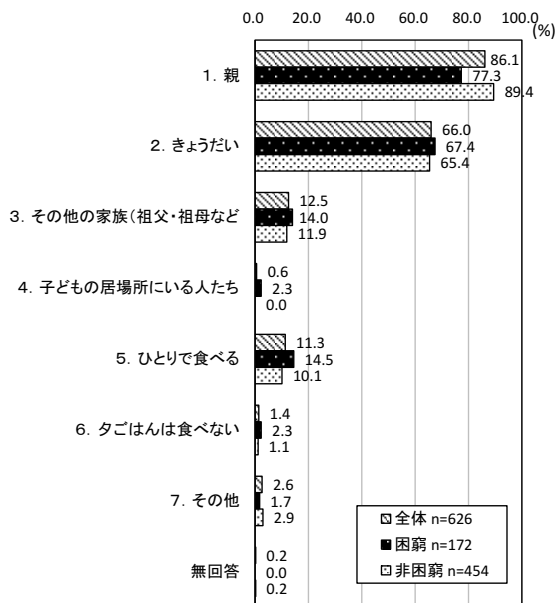
【その他】家族全員(3件)／友だち(2件)／いとこ(1件)

食事を誰と食べるか：休日朝食(中学2年生)



【その他】友だち(6件)／部活のメンバー、いとこ、家族全員、みんなバラバラ、日によって違う(1件)

食事を誰と食べるか：休日夕食(中学2年生)



【その他】友だち(12件)／家族全員(4件)／いとこ(2件)／みんなバラバラ(1件)

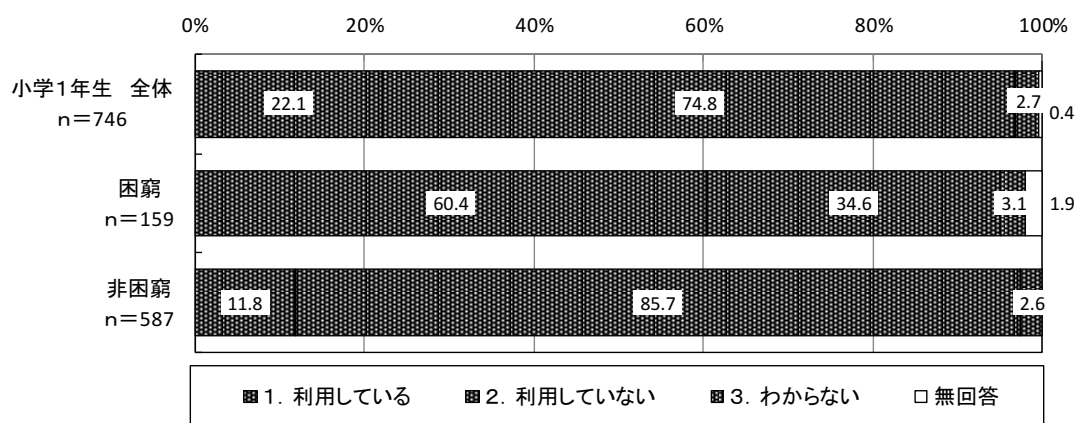
⑩就学援助の利用

○就学援助の利用状況（保護者） <小1保護者：問15、小5保護者：問9、中2保護者：問9>

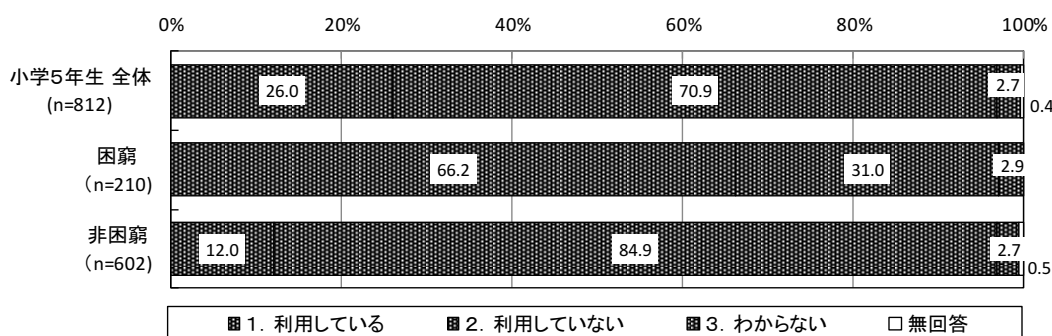
就学援助の利用状況を尋ねたところ、小学5年生・中学2年生いる家庭ともに3割弱が就学援助を利用している回答している。経済別にみると、困窮世帯では各学年ともに6割～7割弱と多くの世帯が利用している。一方で、困窮世帯の保護者のうち3割強が就学援助を利用していない状況となっている。

県調査との比較をみると、「就学援助を利用している」と回答した世帯は県調査よりも高い結果となっている。ただし、県調査は平成27年に実施したものであり、この間にテレビCM等で全県的に就学援助の周知活動を行った結果、全県的に就学援助の利用が増加していることから、こうした影響により利用割合が高くなっていることも推察される。

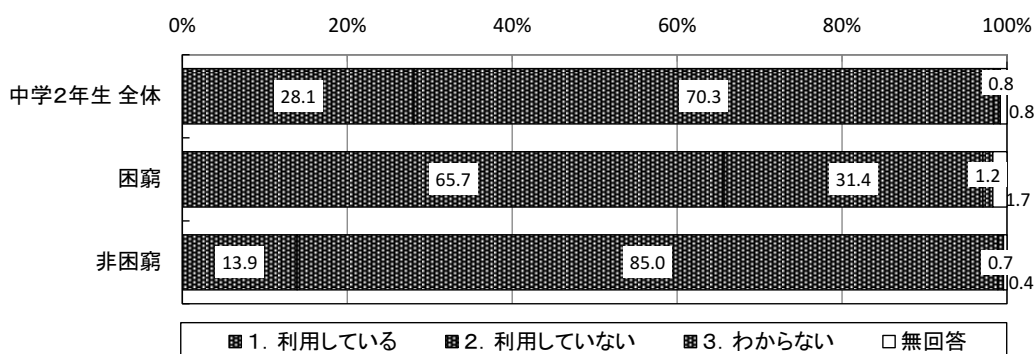
就学援助制度の利用×経済状況別



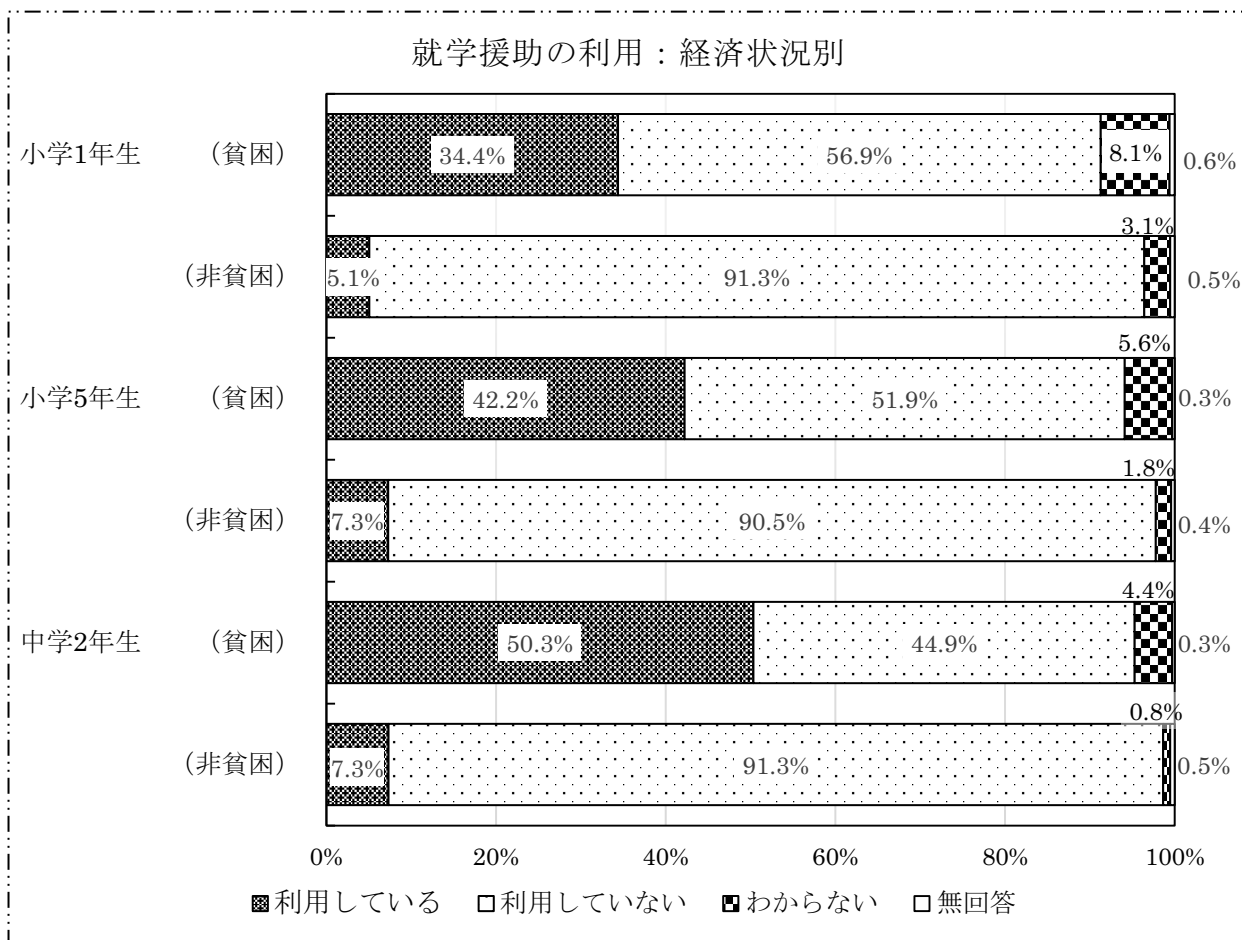
就学援助の利用：経済状況別



就学援助の利用：経済状況別



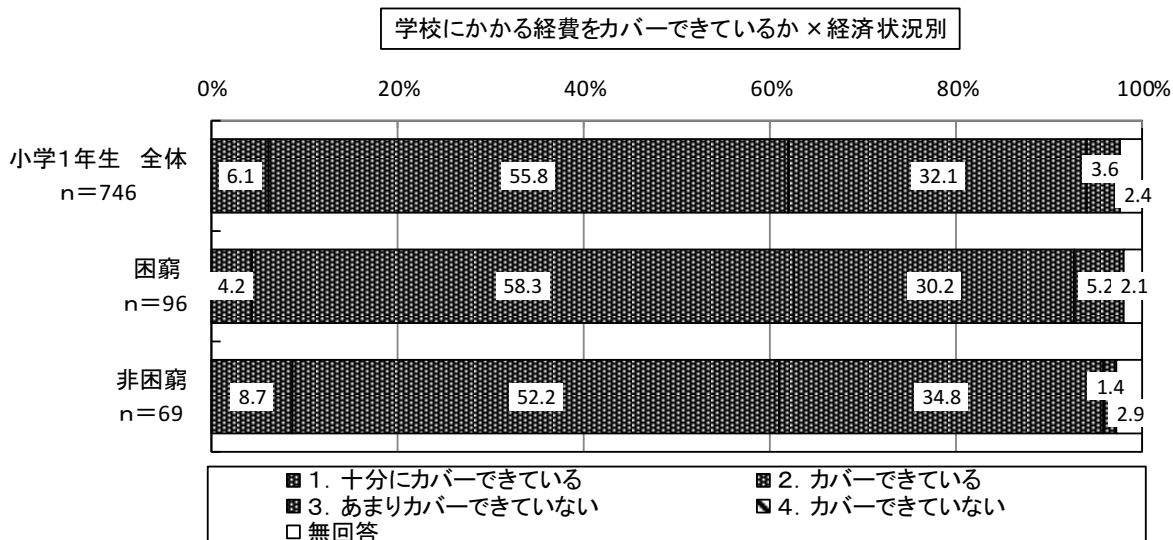
■参考：県調査結果（平成 27 年沖縄県子ども調査結果概要）

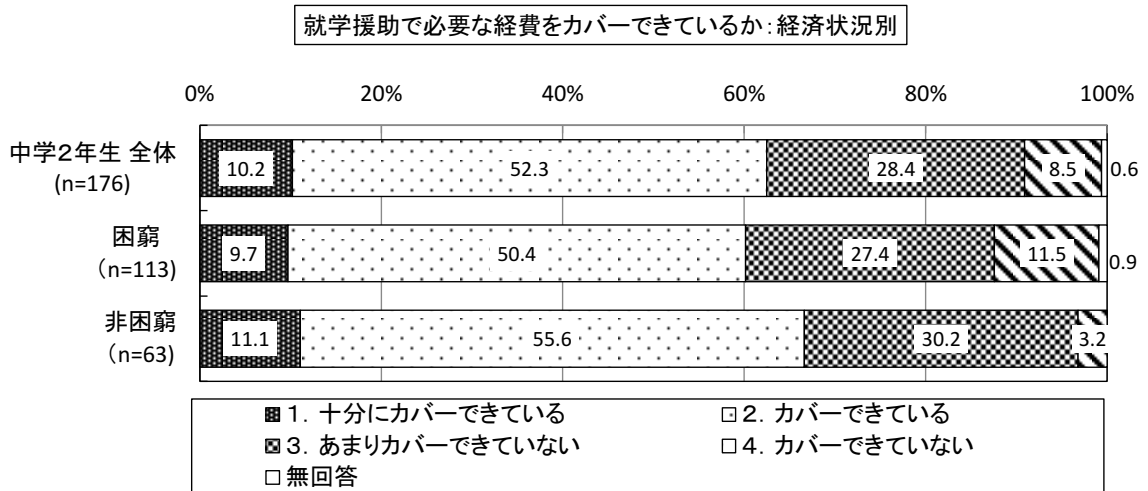
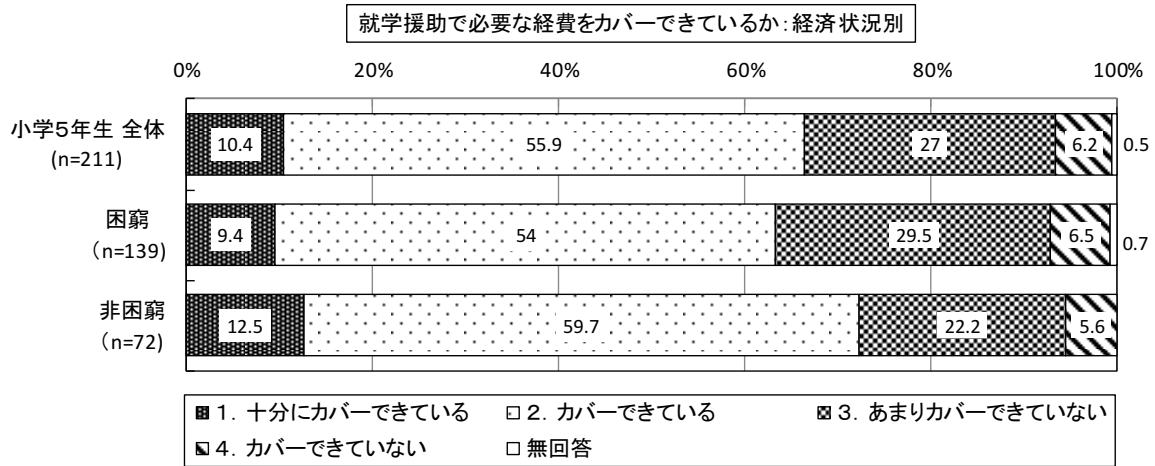


○就学援助利用による経費のカバー状況（保護者）〈小1保護者：問15-1、小5保護者：問9-1、中2保護者：問9-1〉

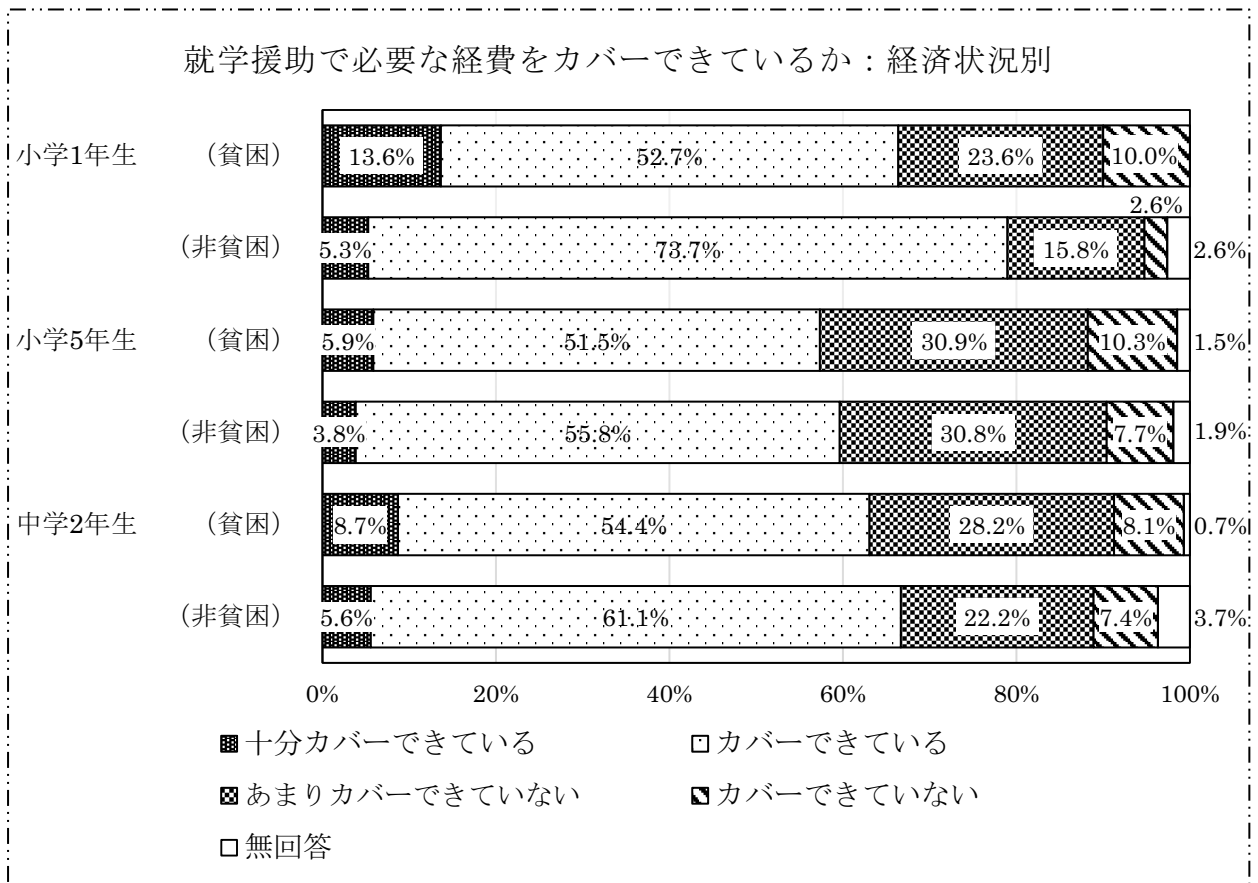
就学援助に必要な経費をカバーできているかを尋ねたところ、『経費をカバーできている』という回答は6～7割程度で、半数以上の世帯が就学援助で学校に係る経費をカバーできていると回答しているものの、『経費をカバーできていない』も3割～4割程度みられる。

なお、困窮世帯の方が『経費をカバーできていない』とする割合が高い状況にある。県調査と比較してみると、各学年ともおおむね県調査と同様の傾向となっている。





■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）

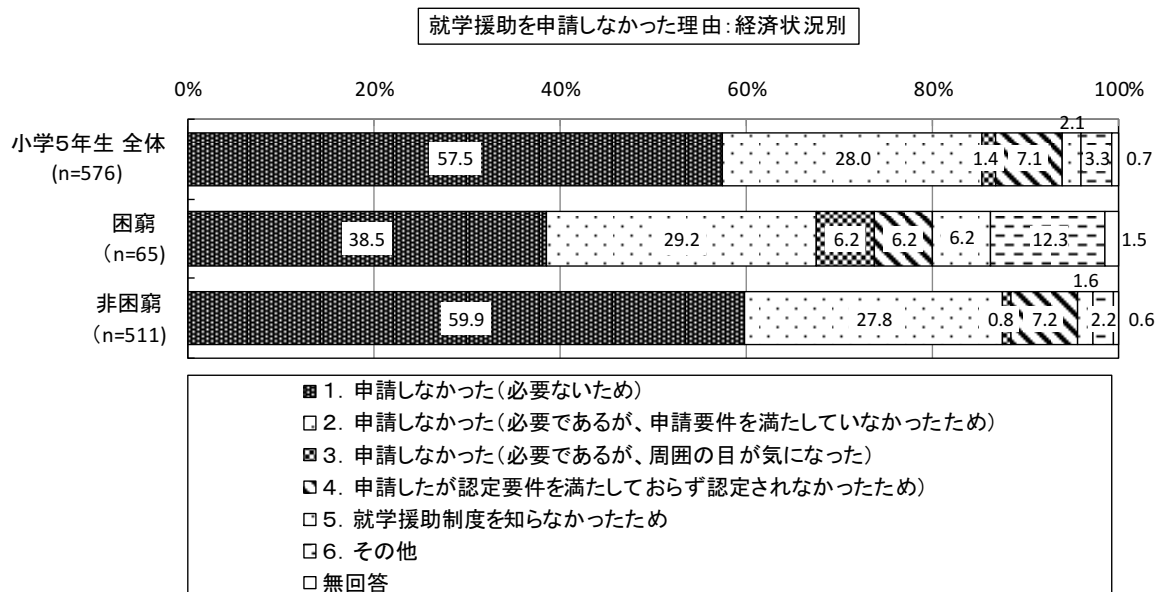
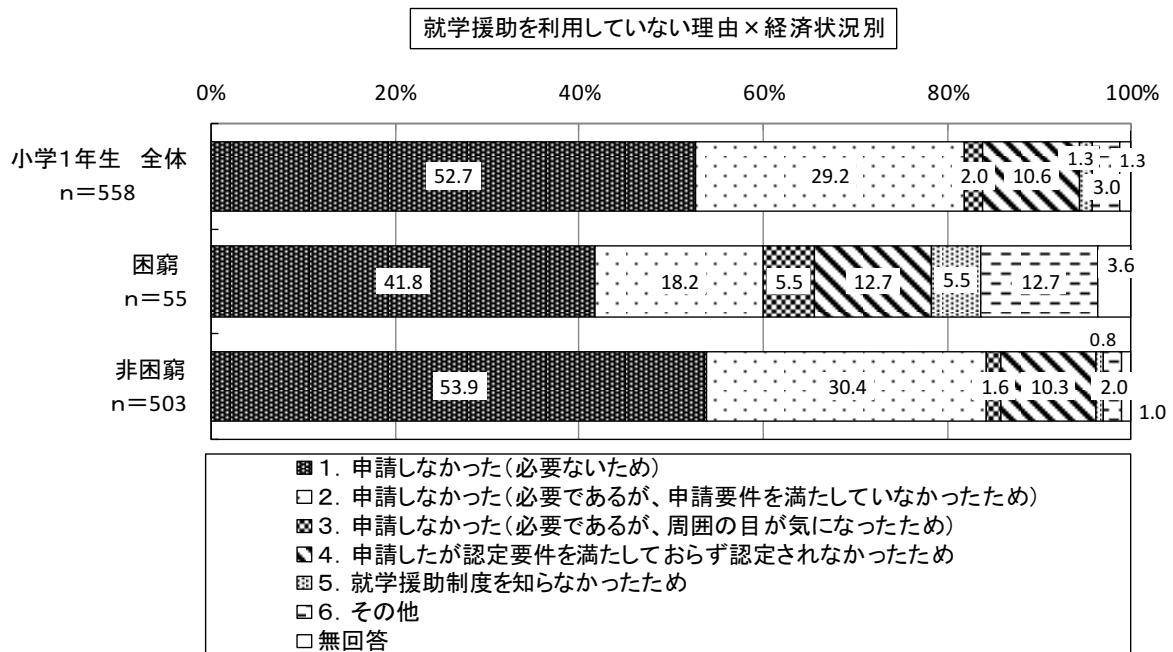


○就学援助を利用しなかった理由（保護者） 〈小1保護者：問15-2、小5保護者：問9-2、中2保護者：問9-2〉

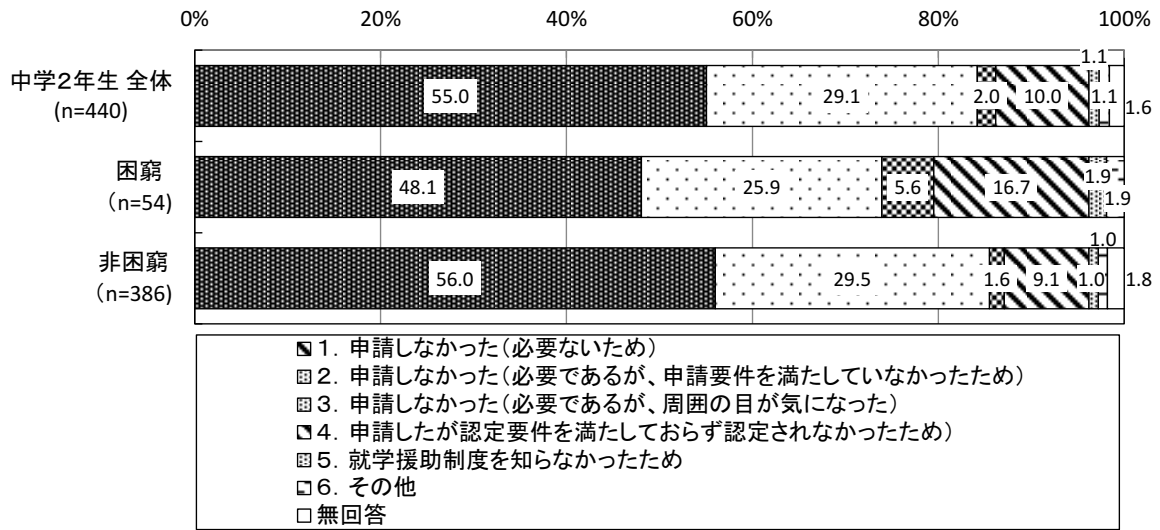
就学援助を利用していないと回答した保護者に対し、利用していない理由を尋ねたところ、各学年とも「申請しなかった（必要ないため）」が5～6割程度で最も多くなっている。

なお、わずかではあるが、「申請しなかった（必要であるが、周囲の目が気になったため）」や「就学援助制度を知らなかったため」など、申請していれば利用できた可能性がある世帯もみられる。知らずに利用できなかつたり、必要であるにも関わらず周囲の目を気にして申請できない状況は子どものためにも好ましくないことから、今後とも制度の周知徹底や利用しやすい環境づくりが求められる。

県調査と比較してみると、各学年ともおおむね県調査と同様の傾向となっている。

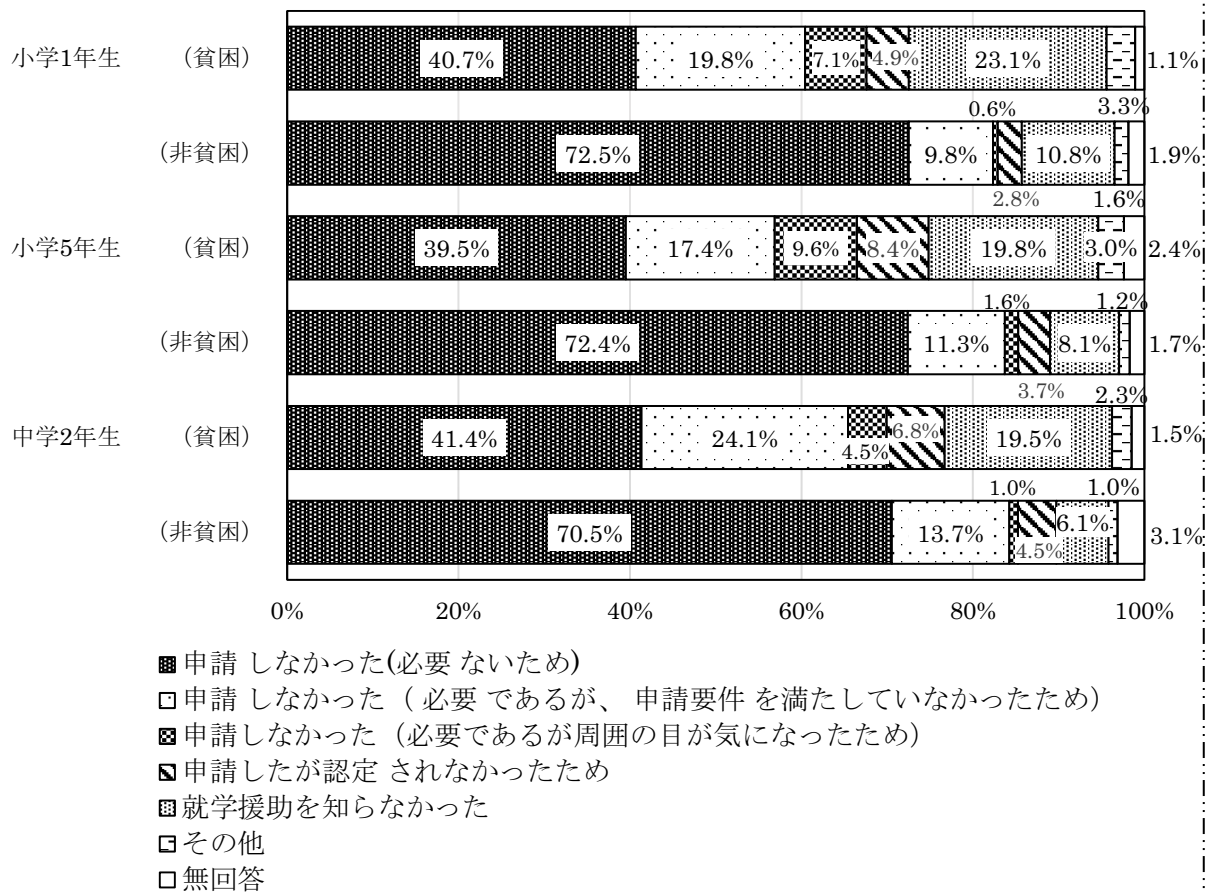


就学援助を申請しなかった理由：経済状況別



■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）

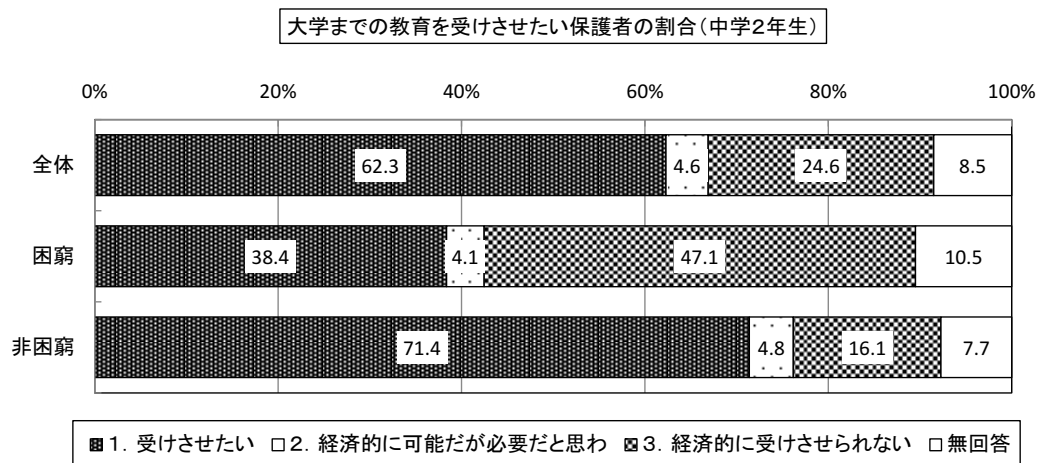
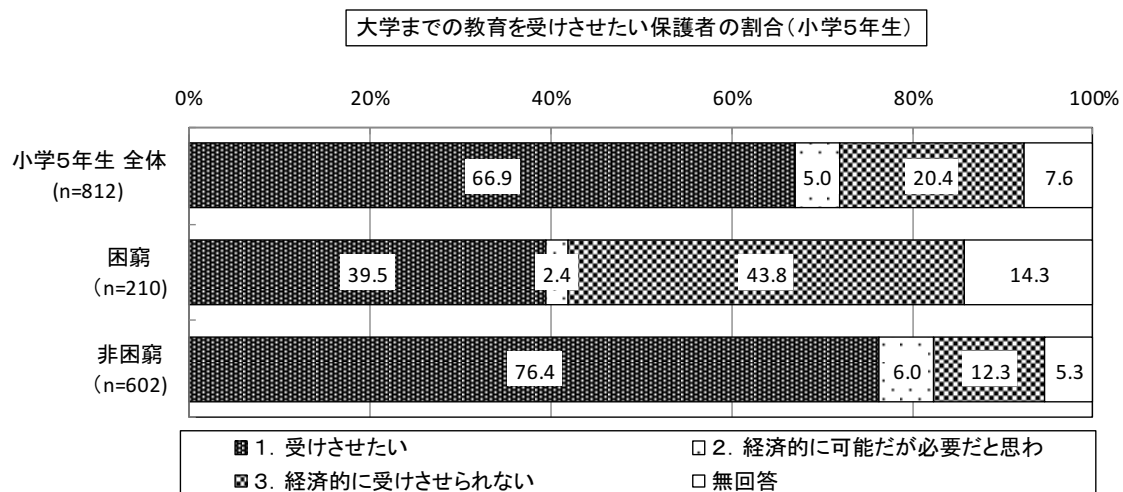
就学援助を申請しなかった理由：経済状況別



⑪子どもの進学に関する意識

○大学までの教育を受けさせたい保護者の割合（保護者） <小5保護者：問10、中2保護者：問10>

「大学までの教育（22歳くらい）」に対する意識について経済状況別にみると、「受けさせたい」とした回答が困窮世帯と非困窮世帯で2倍近くの開きがあり、困窮世帯では「経済的に受けさせられない」とした回答が4～5割程度みられる。



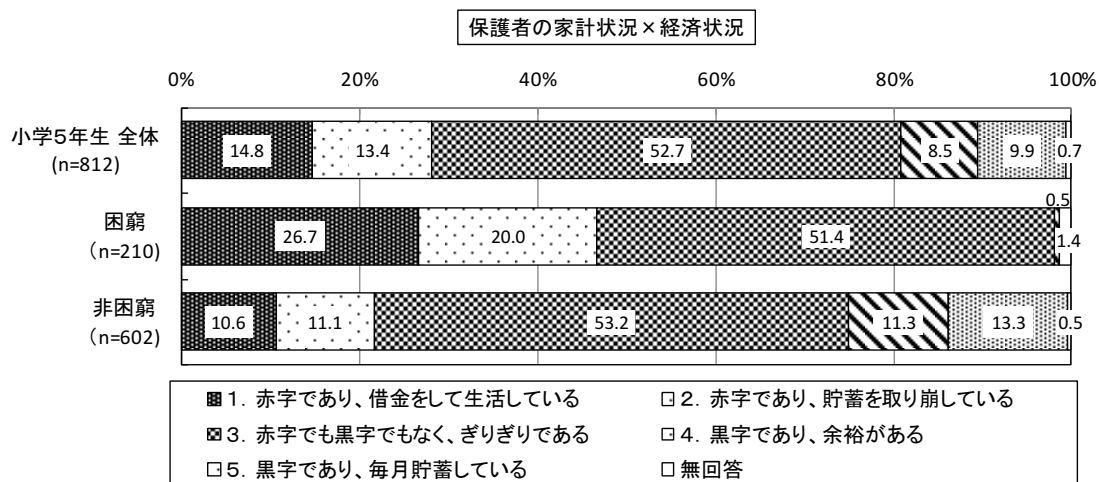
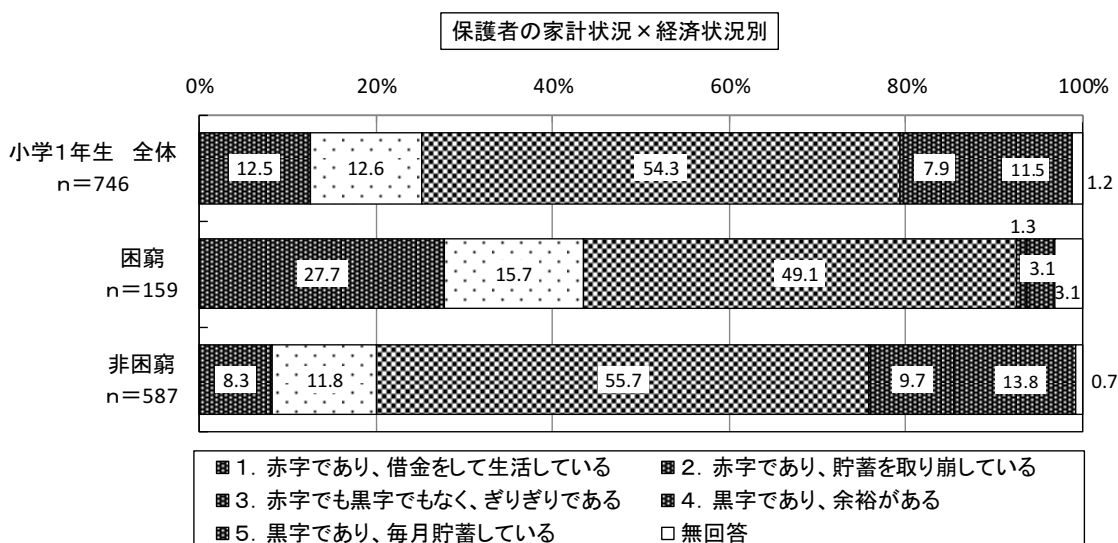
⑫家計と子どもへの支出

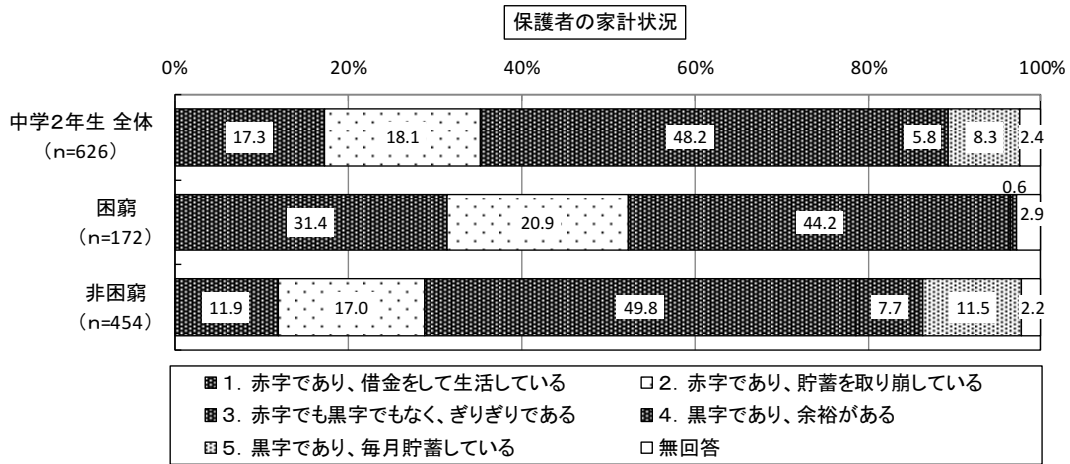
○家計の状況（保護者） <小1保護者：問27、小5保護者：問21、中2保護者：問21>

家計の状況について尋ねたところ、『赤字である』が3割～4割程度、『黒字である』が1割～2割程度となっており、赤字という回答が黒字よりも高い状況にある。

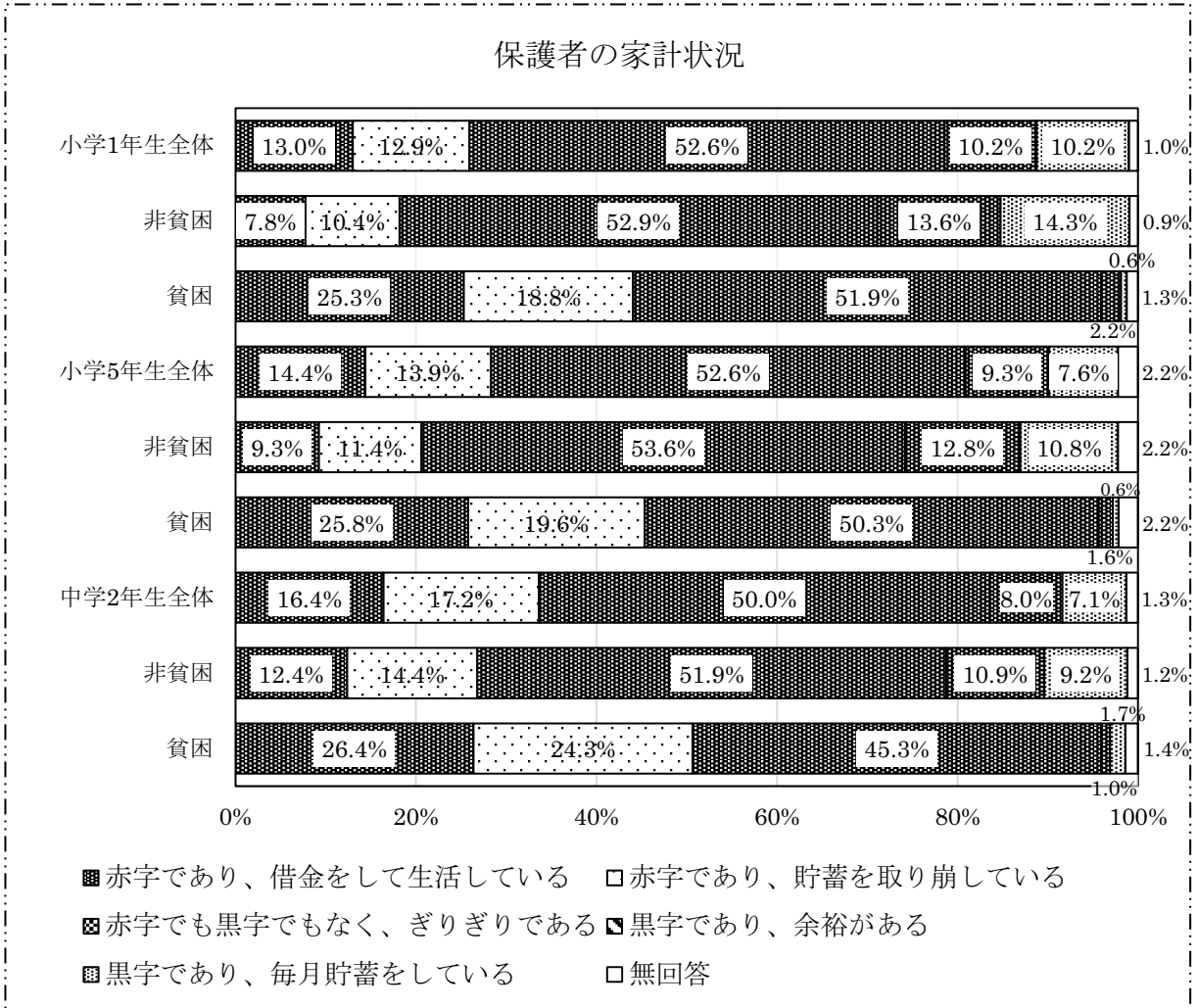
経済状況別にみると、『赤字である』とした割合が困窮世帯で高い傾向にあり、各学年ともに非困窮世帯の倍程度となっている。特に、「赤字であり、借金をして生活している」と回答した方も各学年3割程度みられ、困窮世帯では家計がかなり厳しい状況がうかがえる。なお、困窮世帯では『黒字である』とした割合はほとんどいない状況にある。

沖縄県調査との比較をみると、本市での割合と大きな差はない。





■参考：県調査結果（平成27年沖縄県子ども調査結果概要）



○子どもへの支出（保護者） <小5保護者：問18、中2保護者：問18>

毎月おこづかいを渡すなど10の項目について、子どもに金品や体験機会等を与えているかを尋ねたところ、項目によって回答割合に違いがみられる。与えているという回答が多い項目は、「お誕生日のお祝いをする」、「医者に行く（医療機関での健診を含む）」、「子どもの学校行事などへ親が参加する」などとなっている。

一方で、経済的にできないという回答が多い項目は、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「学習塾に通わせる」、「習い事に通わせる」、「毎月おこづかいを渡す」などとなっている。これらの項目については困窮世帯と非困窮世帯の差も大きく、経済状況により体験機会等での格差が生じている状況がうかがえる。特に、中学2年生という思春期の子どもに対して「毎年新しい洋服・靴を買う」ことができない方が1割程度いることも見逃せない状況といえる。

子どもへの支出（小学5年生の保護者）

	小学5年生			
	している	していない		無回答
		必要な だと思	経済的に ないで	
A. 毎月おこづかいを渡す	25.4	59.2	12.9	2.5
B. 毎年新しい洋服・靴を買う	86.8	6.2	6.0	1.0
C. 習い事(音楽・スポーツ・習字等)に通わせる	66.4	10.8	18.7	4.1
D. 学習塾に通わせる	34.0	33.4	28.6	4.1
E. お誕生日のお祝いをする	97.4	0.5	1.2	0.9
F. 1年に1回くらい家族旅行に行く	33.3	5.7	58.3	2.8
G. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	94.0	1.1	4.1	0.9
H. 医者に行く(医療機関での健診を含む)	96.8	1.4	0.6	1.2
I. 歯医者に行く(歯科医での健診を含む)	93.0	2.0	3.3	1.7
J. 子どもの学校行事などへ親が参加する	95.9	1.4	1.4	1.4

子どもへの支出（中学2年生の保護者）

	中学2年生			
	している	していない		無回答
		必要な だと思	経済的に ないで	
A. 毎月おこづかいを渡す	38.7	41.5	17.1	2.7
B. 毎年新しい洋服・靴を買う	78.6	8.9	11.0	1.4
C. 習い事(音楽・スポーツ・習字等)に通わせる	43.3	23.5	26.4	6.9
D. 学習塾に通わせる	44.1	20.4	31.0	4.5
E. お誕生日のお祝いをする	94.4	1.4	3.7	0.5
F. 1年に1回くらい家族旅行に行く	25.6	8.5	62.0	4.0
G. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	87.1	3.2	9.3	0.5
H. 医者に行く(医療機関での健診を含む)	93.5	2.2	3.4	1.0
I. 歯医者に行く(歯科医での健診を含む)	89.3	3.0	5.9	1.8
J. 子どもの学校行事などへ親が参加する	90.4	4.0	3.5	2.1

○子どもへの支出：経済的にできないこと（保護者） <小5保護者：問18、中2保護者：問18>

「経済的にできない」割合は、経済状況によって異なっており、困窮世帯では多くなっている。特に困窮世帯では、「習い事」や「学習塾」についてどの学年も4～5割程度、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は7～8割程度が経済的にできないとしており、非困窮世帯との差も大きい状況にある。

